

高崎市文化財調査報告書第236集

# 全 徳 森 遺 跡

—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2009

高崎市教育委員会

# 全 徳 森 遺 跡

—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2009

高崎市教育委員会

## 例 言

1. 本書は、宅地造成に伴う全徳森遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本遺跡は、群馬県高崎市箕郷町445番地1に所在している。
3. 本調査及び整理作業は、高崎市教育委員会が委託契約を締結した有限会社毛野考古学研究所の協力を得て実施した。
4. 発掘調査の体制は、以下の通りである。  
高崎市教育委員会 田口一郎、角田慎也  
有限会社毛野考古学研究所 日沖剛史、高木義明
5. 発掘・整理作業は、平成20年4月23日～平成21年3月31日の期間で実施した。
6. 本遺跡は、高崎市教育委員会の遺跡番号で415である。
7. 本書の執筆については、Iを田口、それ以外を日沖が行った。
8. 石器の実測・観察は土井道昭（有限会社毛野考古学研究所）が行った。
9. 本書に関わる資料は、一括して高崎市教育委員会が保管している。
10. 発掘調査・整理作業に携わった方々は以下の通りである。

### 【発掘調査】

牛込典子 桑原 巖 高橋賢次 高橋新作 田村 瞭 永井述史 永井祐二 益子廣治 丸山博美  
柳澤敏子 吉田サヨ子

### 【整理作業】

磯 洋子 神本沙織 久保田寿子 佐藤恵理 武士久美子 野田奈緒 半澤利江 深谷道子 真下弘美  
山口昌子

11. 発掘調査の実施から報告書の刊行に至る過程で下記の機関・諸氏のご協力を賜った。記して感謝申し上げます。（敬称略）

大東建託株式会社 株式会社測研 有限会社前橋文化財研究所 カネコハウス有限会社

石井克己 伊藤明宏 折籠伸二 坂口 一 早田 勉 高林真人 深澤敦仁 三浦京子 水谷貴之

## 凡 例

1. 遺構図の縮尺は、平面図及び土層断面図を1/60縮尺、カマド等を1/30縮尺を基本として掲載し、挿入図中にはスケールを付してある。また、図中の北方位は座標北であり、国家座標値（世界測地系）は遺跡全体図中（第6・7図）に示してある。
2. 遺物実測図の縮尺は、1/1～1/3縮尺の範囲で掲載し、図中にスケールを付してある。遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。
3. 遺構及び土器の色調観察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所 監修 2006）に従っている。
4. 遺物実測図のトーンは次の意味を示す。



灰土



黒色処理

# 目 次

## 例言・凡例

### 目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

I 調査に至る経緯	1	2. 堅穴住居跡	8
II 地理的・歴史的環境	2	3. 配石墓	11
1. 地理的環境	2	4. 溝	11
2. 歴史的環境	2	5. 土坑群	11
III 調査の方法と経過	4	6. 土坑	12
1. 調査の方法	4	7. ビット	13
2. 調査の経過	4	8. 遺構外出土遺物	13
IV 標準堆積土層	5	VI まとめ	33
V 検出された遺構と遺物	5	写真図版	
1. 遺跡の概要	5	抄録・奥付	

## 図版目次

第1図 調査区域図	1	第12図 3号住居跡②	17	第23図 1号配石墓①	22
第2図 遺跡の位置	2	第13図 4号住居跡①	17	第24図 1号配石墓②	23
第3図 遺跡の位置と周辺の遺跡	3	第14図 4号住居跡②	18	第25図 1号溝	23
第4図 標準堆積土層	5	第15図 5号住居跡①	18	第26図 出土遺物実測図①	23
第5図 調査区域図	5	第16図 5号住居跡②	19	第27図 出土遺物実測図②	24
第6図 1区全体図	6	第17図 6号住居跡①	19	第28図 出土遺物実測図③	25
第7図 2区全体図	7	第18図 6号住居跡②	20	第29図 出土遺物実測図④	26
第8図 1号住居跡	14	第19図 7号住居跡①	20	第30図 出土遺物実測図⑤	27
第9図 2号住居跡①	15	第20図 7号住居跡②	21	第31図 出土遺物実測図⑥	28
第10図 2号住居跡②	16	第21図 8号住居跡	21	第32図 焼化した土器量標の分布状況	33
第11図 3号住居跡①	16	第22図 1号土坑群	21	第33図 1号配石墓の崩壊過程図	34

## 表 目 次

第1表 周辺遺跡一覧表	3	第4表 出土遺物観察表①	28	第7表 出土遺物観察表④	31
第2表 1区一覧表	12	第5表 出土遺物観察表②	29	第8表 出土遺物観察表⑤	32
第3表 ビット一覧表	13	第6表 出土遺物観察表③	30		

## 写真図版目次

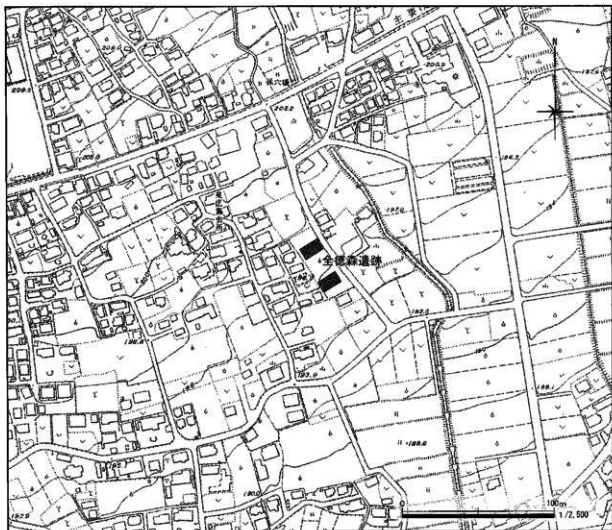
P.L. 1 遺跡遺景 1 区全景		4号住居跡全景		P.L. 5 1号住居跡出土遺物	
P.L. 2 2区全景 1号住居跡全景		5号住居跡全景		2号住居跡出土遺物	
2号住居跡土器量標検出状況		7号住居跡全景		3号住居跡出土遺物	
2号住居跡土器量標 断ち割り断面		7号住居跡遺物出土状況		P.L. 6 4号住居跡出土遺物	
2号住居跡茅葺炭化物出土状況		6号住居跡全景	P.L. 4	5号住居跡出土遺物	
P.L. 3 2号住居跡全景		1号配石墓全景		6号住居跡出土遺物	
2号住居跡カマド全景		1号配石墓掘り方		P.L. 7 7号住居跡出土遺物	
3号住居跡全景		遺物出土状況		1号配石墓出土遺物	
3号住居跡掘り方働き込み面 検出状況		1号配石墓掘り方全景		1号掘出土遺物	
		1号溝全景		1号土坑群出土遺物	
		1号土坑群全景		P.L. 8 17号土坑出土遺物	
		標準堆積土層		20号土坑出土遺物	
		調査風景		遺構外出土遺物	

## I 調査に至る経緯

平成20年2月、田中 登氏（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に集合住宅建設予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、該当地が平安時代を中心とする散布地として道路台帳・地図に登録された埋蔵文化財包蔵地であるため、工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年3月14日に工事予定地の試掘調査を実施し、平安時代の遺構を確認した。

試掘結果を受けて、埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、建設計画の変更は不可能ということなので、文化財保護法第93条第1項の規定による届出に対する回答で、記録保存の発掘調査が必要であると指示を出した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、有限会社毛野考古学研究所に委託して実施することとなり、平成20年4月16日付けで高崎市長・事業者・毛野考古学研究所の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成20年4月16日付けで事業者と毛野考古学研究所の二者で発掘調査委託契約が締結された。



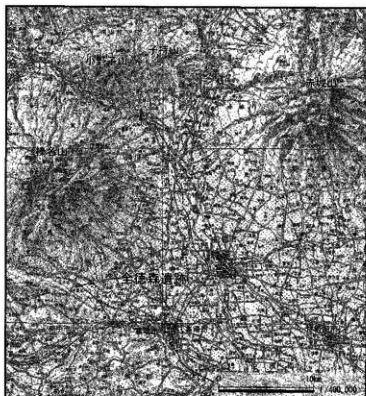
第1図 調査区域図

## II 地理的・歴史的環境

### 1. 地理的環境 (第2・3図)

全徳森遺跡が所在する高崎市箕郷町は群馬県のほぼ中央に位置し、北西に榛名山、北に子持山・小野子山、北東に赤城山を望むことができる。

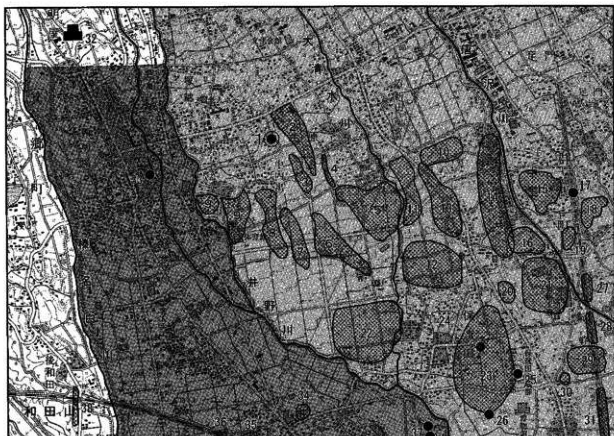
箕郷町の地形は、その大半が扇状地形に属しており、大きく「十文字面」・「白川扇状地」・「相馬ヶ原扇状地」に分類することができる。これらの地形は箕郷町を南流する榛名白川・井野川により概ね区分することができ、榛名白川右岸に見られる開折谷が「十文字面」、井野川左岸に広がる扇状地が「相馬ヶ原扇状地」、「相馬ヶ原扇状地」と「十文字面」に挟まれた幅狭な扇状地形が「白川扇状地」とされている。扇状地の形成過程を見ると、古期の扇状地とされる「十文字面」が形成された後、榛名山の陣場岩層などにより「相馬ヶ原扇状地」が開け、さらに古墳時代後期に起きた榛名山の2度にわたる火山爆発(II r - F A・II r - F P)によって引き起こされた泥流により「白川扇状地」が最終的に形成されたようである。なお、本遺跡はこれら扇状地のうち「相馬ヶ原扇状地」の西端に位置している。



第2図 遺跡の位置  
(国土地理院発行『宇都宮』・長野) 1/200,000を50%縮小

### 2. 歴史的環境 (第3図、第1表)

「相馬ヶ原扇状地」の西端に立地する本遺跡の周辺には、縄文時代中期及び奈良・平安時代を主体とした遺跡が数多く確認されており、「生原遺跡群」と呼称されている。「生原遺跡群」は、田島遺跡・大清水遺跡・海行A・B遺跡(11・13)・善龍寺前遺跡(5)・中新田遺跡(4)・八反田遺跡(2)・諏訪遺跡(3)・飯盛遺跡(6)・佐藤遺跡(7)・堀ノ内遺跡(8)・薬師遺跡(9)で構成されている。「生原遺跡群」の南を望むと保儀田遺跡(27)・保儀田八幡塚古墳(25)を始めとした古墳時代後期の集落及び古墳群の存在が目立つ。なお、古墳時代後期の集落は、奈良時代を経て平安時代まで継続して営まれる様相が見て取れる。「生原遺跡群」とその眼下に広がる遺跡群を比較すると、「生原遺跡群」は奈良・平安時代を主体とする遺跡群であるのに対し、眼下に広がる遺跡は古墳時代～平安時代までを主体とするものである。このような状況は、古墳時代における開発範囲を捉える上で興味深いものと言えよう。なお、「白川扇状地」上における遺跡数は現時点において多くはないものの、下芝五反田遺跡(35)の事例を見ると、保儀田周辺に広がるような遺跡群が、厚く堆積したH r - F A・H r - F P泥流層の下に存在するものと考えられよう。



十文字面
  白川扇状地
  相馬ヶ原扇状地
 0 1km  
1/25,000

第3図 遺跡の位置と周辺の遺跡(国土地理院発行『下室田』1/25,000)

1 全徳遺跡	平安集落・竪	本報告	20 横島石前遺跡	古墳遺物包含層	『野洲町の遺跡』1986 群馬町
2 八反崎遺跡	縄文中期住居、奈良～平安集落	『生原八反崎遺跡』2007 高崎市 『南行A・B遺跡』1989 茨城町	21 保原田東遺跡	奈良～平安集落	『保原田東遺跡』1996 群馬町
3 熊野遺跡	平安作屋	『南行A・B遺跡』1989 茨城町	22 保原田西遺跡	古墳水田?、平安水田	『保原田西遺跡』1983 群馬町
4 中野川遺跡	奈良～平安集落	『南行A・B遺跡』1989 茨城町	23 保原田南遺跡	縄文前期土坑、古墳前期集落、保原田古墳群周辺の遺物群	『保原田南遺跡群調査(1)』1989 群馬町、『保原田南遺跡』1980 群馬町
5 吾妻石前遺跡	縄文中期集落、古墳	『生原・吾妻石前遺跡』1986 茨城町	24 保原田東部竪穴遺跡	S c 前期方壇内墳	『保原田東部遺跡』1980 群馬町
6 新屋遺跡	古墳～平安集落、縄文前期集落	『南行A・B遺跡』1989 茨城町	25 保原田八幡塚古墳	S c 前期方壇内墳	『保原田八幡塚古墳』2000 群馬町
7 伝馬遺跡	奈良集落	『南行A・B遺跡』1989 茨城町	26 井沢二子山古墳	S c 後方壇内墳	『二ッ寺』遺跡』1985 群馬町
8 磯ノ内遺跡	奈良～平安集落	『南行A・B遺跡』1989 茨城町	27 保原田遺跡	古墳後期～平安集落	『二ッ寺遺跡』保原田遺跡・中皇大神宮古墳』1985(財)群馬文
9 蓮沼遺跡	奈良～平安集落	『南行A・B遺跡』1989 茨城町	28 ニッ寺遺跡	古墳後期～平安集落	『二ッ寺遺跡』保原田遺跡・中皇大神宮古墳』1985(財)群馬文
10 西芝遺跡	古墳・平安住居	『中皇遺跡群西芝・小遺・押出・諏訪遺跡』見砂門遺跡(1)』1991 群馬町	29 井出池田遺跡群	遺物未検出	『井出池田遺跡群』1992 群馬町
11 南行A遺跡	古墳後期・平安集落	『南行A・B遺跡』1989 茨城町	30 井出遺跡	古墳中～後期の古墳遺物群(B/c)	『群馬考古学季報 Vol.3』1992
12 保原田北神前遺跡	奈良後期～古墳前期集落、後期古墳、奈良、平安住居、平安出雲	『保原田北神前・鹿野遺跡』1980 群馬町	31 ニッ寺B遺跡	縄文前期住居、奈良後期～平安集落	『二ッ寺』遺跡』1991(財)群馬文
13 南行B遺跡	古墳、古墳後期・平安集落	『南行A・B遺跡』1989 茨城町	32 瓦輪遺跡	銅器埋付古墳	『史跡野輪遺跡』2008 高崎市
14 屋敷古墳群	円墳群	『群馬町の遺跡』1986 群馬町	33 上芝古墳	S c 中～後立式古墳	『群馬町誌』1973 茨城町
15 中道遺跡	田畑畑作遺跡跡ボーラツグ類	『中皇遺跡群西芝・小遺・押出・諏訪遺跡』見砂門遺跡(1)』1991 群馬町	34 下芝・谷ノ遺跡	F A 後立式古墳	『日本考古学季報』2012 1888
16 押出遺跡	テラタ堆積層確認	『中皇遺跡群西芝・小遺・押出・諏訪遺跡』見砂門遺跡(1)』1991 群馬町	35 下芝×反川遺跡	F A下・鹿原ノ集落	『下芝×反川遺跡』1998(財)群馬文
17 中皇大神塚古墳	後期古墳	『二ッ寺遺跡群』保原田遺跡・中皇大神宮古墳』1985(財)群馬文	36 下芝天神遺跡	古墳中～後期・奈良、古墳中～後期初期古墳	『下芝天神遺跡・下芝上田遺跡群』1995(財)群馬文
18 見砂門遺跡	縄文前期包含層、中世墳	『中皇遺跡群西芝・小遺・押出・諏訪遺跡』見砂門遺跡(1)』1991 群馬町	37 遺原遺跡群連綿遺跡	F A 後立式古墳	『遺原遺跡群』1989 高崎市
19 筑前遺跡	奈良上墳墓	『中皇遺跡群西芝・小遺・押出・諏訪遺跡』見砂門遺跡(1)』1991 群馬町	38 和川天神宮遺跡	古墳後期集落・群馬遺	『和川天神宮遺跡』1999(財)群馬文

第1表 周辺遺跡一覧表

### Ⅲ 調査の方法と経過

#### 1. 調査の方法

表土除去は、0.45バックホーで遺構確認面であるAs-C混土層(Ⅲ・Ⅳ層)ないしローム漸移層(V層)上面まで掘り下げることにした。

確認された遺構は、移植ゴテを使用して掘り下げることにした。竪穴住居跡の検出は、土層観察用のベルトを十字に残して掘り下げ、出土した遺物は可能な限り写真及び図面に記録した。また、竪穴住居跡の床面検出後は掘り方の調査を行い、床下土坑やその他の付随施設等の確認を行っている。土坑等の遺構に関しては、遺構の形状に合わせて半截等により埋没状態を記録している。標準堆積土層の確認はAs-YP(X層)下の陣場岩屑などれ層まで掘り下げ、テフラの堆積及び地形の形成過程を捉えることに努めた。

検出された遺構の記録保存は平面・断面測量及び写真で対応している。測量は世界測地系に基づいた基準点・水準点を設置し、これをもとにトータルステーションを用いて行った。遺構図面の縮尺は、平面・断面図とも1/20縮尺を基本としている。遺構写真は調査の進捗に合わせて随時撮影し、35mm白黒・35mmカラーリバーサルフィルム・500万画素相当のデジタルカメラで対応した。

#### 2. 調査の経過

現地での発掘調査は平成20年4月23日～同年5月23日の間で実施した。

4月23日：プレハブ・発掘器材の搬入。重機による表土除去を行い、同日中に終了する。

5月1日：発掘補助員動員。遺構確認作業を行い、竪穴住居跡・土坑・溝のプランを確認する。

5月2日：2区より遺構検出作業に取りかかる。

5月7日：1区の遺構検出作業を2区と併行して行う。1区北西端で配石墓を確認する。2号住居跡を焼失住居と判断する。基準点の設置を行う。

5月8日：2号住居跡の埋没土中で落盤した土葺屋根を確認する。

5月12日：3号住居跡の掘り方を調査したところ、掘り方底面に幅10cm程の動き込み痕を確認する。

5月15日：1・2区で標準堆積土層を観察するためのテストピットを設け、掘り下げを行う。As-YPの一次堆積層まで掘り下げる。

5月16日：1号配石墓の拡張調査を行う。2区中央に南北方向に走行する土坑群を確認する。2号住居跡の土葺屋根直下で茅状の炭化物を確認する。

5月17日：8号住居跡のほとんどは調査区外に位置し、調査区内にかかるのは僅か一部であったため、トレンチによる所ち割り調査で対応することとする。

5月19日：1号配石墓の床面付近より骨片が出土する。確認当初、平安時代の配石遺構と判断していたが、該期の配石墓として認識を改める。

5月21日：1号配石墓の掘り方から、据えられた状態の灰軸陶器碗・皿が出土する。

5月22日：全ての遺構検出を終了する。

5月23日：調査区内の清掃後、ラジコンヘリコプターによる空撮を行う。空撮の終了を受け、重機による調査区内の埋め戻しを行う。重機による埋め戻しと併行して1号配石墓をさらに拡張し、同遺構の規模を捉える。発掘器材・プレハブの撤収、1号配石墓の拡張部分を埋め戻し、現地での調査を終了する。



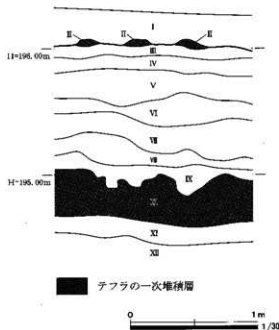
## IV 標準堆積土層 (第4図、P.L. 4)

2区の北西端にテストピットを設け、標準堆積土層を確認した。層序については以下のとおりである。

- I. 暗褐色土：表土層。A s-B (浅間D軽石：1108年降土)  $\phi$ 0.2~0.4 cm 多量含む。しまり弱。粘性弱。
- II. 黄褐色土：A s-C (浅間C軽石：3世紀後半降土) 一次堆積層 ( $\phi$ 0.2~1.0 cm)。しまり弱。粘性なし。
- III. 黒色土：A s-C  $\phi$ 0.2~1.0 cm 中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- IV. 黒褐色土：褐色軽石  $\phi$ 0.2 cm 少量、A s-C  $\phi$ 0.2~0.5 cm・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- V. 暗褐色土：褐色軽石  $\phi$ 0.2 cm 少量、白色軽石  $\phi$ 0.2 cm 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- VI. 暗褐色土：褐色軽石  $\phi$ 0.2 cm 少量、白色軽石  $\phi$ 0.2 cm 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- VII. 暗褐色土：ロームブロック  $\phi$ 0.5~2.0 cm・A s-S j (浅間一級社軽石：11,000年前降土)  $\phi$ 0.2 cm・褐色軽石  $\phi$ 0.2 cm 少量含む。しまり強。粘性ややあり。
- VIII. 褐色土：A s-Y P (浅間一級黄褐色軽石：13,000~14,000年前降土)  $\phi$ 0.2~0.5 cm 少量含む。しまり強。粘性ややあり。
- IX. 黄褐色土：A s-Y P  $\phi$ 0.2~1.0 cm 中量、A s-Y Pの火山灰少量含む。しまり強。粘性あり。
- X. 黄褐色土：A s-Y P 次堆積層 ( $\phi$ 0.2~2.0 cm)。しまりあり。粘性なし。
- XI. 褐色土：炭  $\phi$ 0.5~2.0 cm 少量含む。しまりあり。粘性強。障壁岩層なだれを起因とする層。
- XII にぶい黄褐色土：炭  $\phi$ 0.2~2.0 cm 中量含む。しまりあり。粘性強。障壁岩層なだれを起因とする層。

標 A  
H=197.00m

標 A'



第4図 標準堆積土層

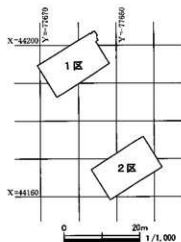
※ Y, B, P

## V 検出された遺構と遺物

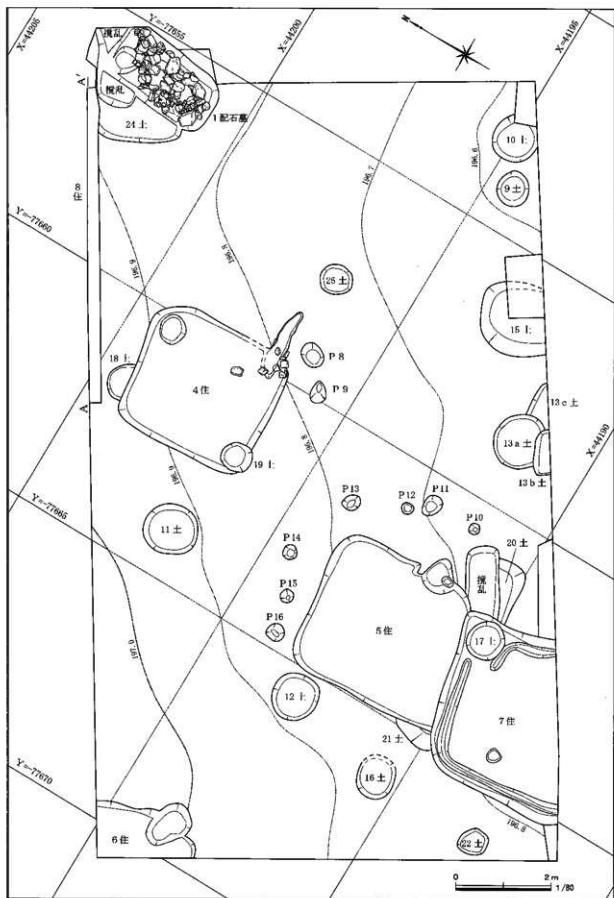
### 1. 遺跡の概要 (第5・6・7図、P.L. 1・2)

今回の調査では、平安時代の竪穴住居跡8軒・配石墓1基・溝1条・土坑群1群・土坑22基、平安時代以降の土坑5基、時期不明のピット16基が確認されている。

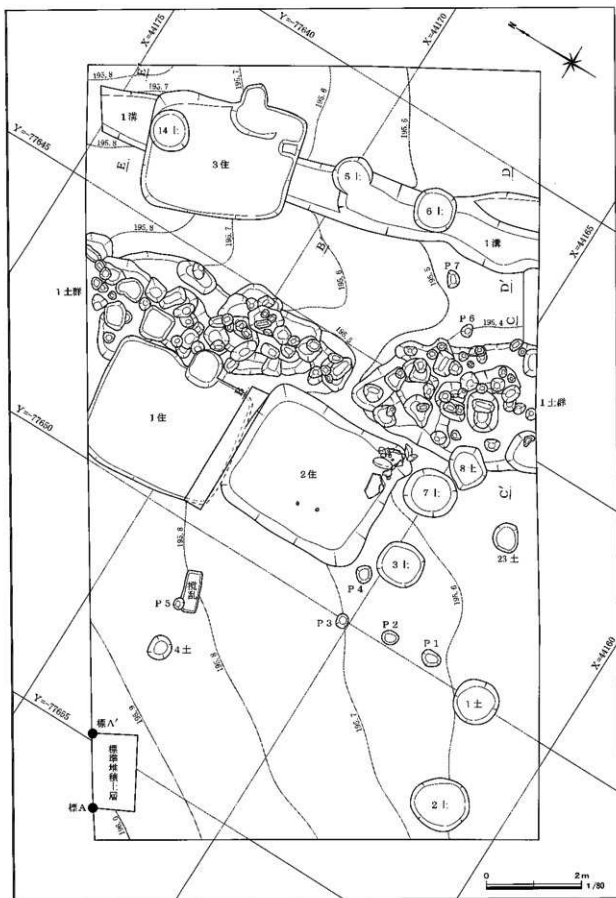
確認された竪穴住居跡は5号住居跡を除き、10世紀代に帰属するものと想定される。なお、5号住居跡は9世紀代の帰属と考えられる。2・7号住居跡は焼失住居で、2号住居跡からは、出火により落盤したものと推測される建物の上屋が確認されている。このほか、注視される遺構として1号配石墓が検出されており、平安時代の集落における墓域のあり方を捉えていく上で、重要な遺構と言える。



第5図 調査区位置図



第6図 1区全体図



第7图 2区全体图

## 2. 竪穴住居跡

1号住居跡（遺構：第8図、P.L. 2/遺物：第26・27図、第4表、P.L. 5）

位置：X=44170・44175、Y=-77650 グリッド。平面形態：長方形を呈する。北西のコーナー付近は調査区外へ延びる。重複：2号住居跡と1号土坑群と重複する。埋設上と出土遺物の観察から、1号土坑群は本住居跡より古く、2号住居跡は本住居跡より新しいものと想定される。規模：(3.20) m × 2.82 m。残存深度：0.15 m。主軸方位：N-84° - E。柱穴：確認されなかった。壁周溝：確認されなかった。床面の状態：多少の凸凹は見られるが、比較的平坦である。カマド：住居跡東壁の中央付近に付設され、焚き口から煙道までは0.79 mを測る。燃焼部と想定される部分は、火床面こそ確認されていないもののやや窪んでおり、煙道は緩やかに立ち上がる。遺構埋没状態：A s - C を含む黒褐色を主体とした上による自然埋没と想定される。掘り方：A s - C とローム粒を含む黒褐色ないし暗褐色の上により埋められている。掘り方の底面は比較的平坦である。遺物出土状態：カマド内及び住居跡中央から西側に偏る傾向にある。時期：平安時代（10世紀代）と想定される。遺物：羽釜・須恵器杯・碗・不明鉄製品の出土が見られる。

2号住居跡（遺構：第9・10図、P.L. 2・3/遺物：第27図、第5表、P.L. 5）

位置：X=44170、Y=-77650 グリッド。平面形態：長方形を呈する。重複：1号住居跡と重複する。出土遺物の観察から、1号住居跡は本住居跡より古いものと想定される。規模：3.38 m × 2.87 m。残存深度：0.70 m。主軸方位：N-89° - E。柱穴：主柱穴は確認されなかったものの西壁からやや中央寄り直径4 cm程の小ピットが2基確認されている。深さはいずれの小ピットとも5 cmで、炭化物を多量に含む黒色土で埋没している。断ち割り調査を行ったところ、柱を据えた状況や杭を打ち込んだ状況は確認できず、重みにより沈み込んでいるような状態にあった。壁周溝：確認されなかった。床面の状態：南側がやや窪み状態にあり、北側との高低差は約7 cmを測る。カマド付近と住居跡北側に炭化物の分布が見られる。カマド：住居跡南東コーナーに石組みカマドが付設され、焚き口から煙道までは0.63 mを測る。燃焼部と想定される部分は、火床面こそ確認されていないもののやや窪んでおり、煙道は鋭角に立ち上がる。燃焼部・煙道部の両側には、芯材となる礫が据えられており、燃焼部中央にはカマドの焚き口に架けられていたものと推測される長さ42 cmの礫が崩落した状態で出土している。なお、カマドの西脇には大きさ58 cm × 30 cm、厚さ12 cmの平坦な礫が置かれている。遺構埋没状態：埋設土の下位では、カマドを破壊した後に火災によって落盤した土葺屋根が捉えられている。土葺屋根には焼土化している部分と焼けていない部分が見られ、住居跡北東側での焼土化が非常に激しい。土葺屋根の下からは順垂に茅状の材、垂木状の木材が炭化した状態で出土している。また、垂木状の木材の下には焼土化していない人為的に混ぜられた土が部分的に堆積しており、これは住居跡失時に屋根が破れた部分から土葺屋根の一部が流れ込んだものと想定される。なお、住居跡の壁面は茅状でも垂木状でもない薄い炭化材により覆われており、網代等の存在が推測される。土葺屋根の上位は自然埋没と想定され、A s - C を含む黒褐色を主体とした上により埋没している。掘り方：ロームブロックを含む暗褐色の土により埋められている。掘り方の底面は凸凹である。遺物出土状態：住居跡の壁面付近に偏る傾向にある。また、北側の焼土化した土葺屋根の下位からは骨片が出土している。時期：平安時代（10世紀代）と想定される。遺物：羽釜・須恵器杯・碗・灰釉陶器碗・鉄製刀子の出土が見られる。

3号住居跡（遺構：第11・12図、P.L. 3/遺物：第27図、第5表、P.L. 5）

位置：X=44175、Y=-77645 グリッド。平面形態：長方形を呈する。重複：1号溝・14号土坑と重複す

る。埋没土と出土遺物の観察から、1号溝は本住居跡より古く、14号土坑は本住居跡より新しいものと想定される。規模:3.15 m × 2.53 m。残存深度:0.33 m。主軸方位:N-67°-E。柱穴:確認されなかった。壁周溝:確認されなかった。床面の状態:多少の凸凹は見られるが、比較的平坦である。南壁のやや東寄りにはローム層を掘り残した長さ0.46 m、幅0.34 m、高さ0.21 mの小テラスが見られる。テラスの上面において硬化した状態は確認されていない。カマド:住居跡東壁の中央付近に付設され、焚き口から煙道までは1.11 mを測る。燃焼部と想定される部分は、火床面こそ確認されていないものやや窪んでおり、煙道は鈍角に立ち上がる。遺構埋没状態:A s-Cを含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。掘り方:A s-Cとローム粒を含む黒褐色を主体とした土により埋められている。掘り方の底面では幅10 cm~15 cm程の踏み込み痕、0.50 m × 0.44 m、深さ0.16 mのピット、ピットより派生する幅0.30 m、深さ0.12 mの溝が確認されている。遺物出土状態:出土遺物は少なく、カマド内に集中する傾向にある。住居跡床面には散在するように分布する。時期:平安時代(10世紀代)と想定される。遺物:羽釜・須恵器坏・不明鉄製品(鎌か?)の出土が見られる。

#### 4号住居跡(遺構:第13・14図、P.L. 3/遺物:第28図、第5・6表、P.L. 6)

位置:X=44200、Y=-77660・-77665グリッド。平面形態:長方形を呈する。重複:18・19号土坑と重複するが、新旧関係は不明。規模:3.14 m × 2.84 m。残存深度:0.25 m。主軸方位:N-85°-E。柱穴:確認されなかった。壁周溝:確認されなかった。床面の状態:多少の凸凹は見られるが、比較的平坦である。北東コーナーに0.64 m × 0.55 m、深さ0.33 mのピット(P1)が見られる。カマド:住居跡東壁の南端に石組みカマドが付設されるものの、北側の袖は擾乱により壊されている。焚き口から煙道までは1.56 mを測る。燃焼部と想定される部分は、火床面こそ確認されていないものやや窪んでおり、煙道は鈍角に立ち上がる。煙道部の両側には、芯材となる礎が据えられているものの、そのほとんどは原位置を保持していない状態にある。掘り方には多量の灰が入り込まれており、灰床として機能していたものと想定される。遺構埋没状態:A s-Cを含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。掘り方:A s-Cとローム粒を含む黒褐色を主体とした土により埋められている。掘り方の底面は比較的平坦である。遺物出土状態:出土遺物は少なく、住居跡内に散在する状態で出土している。時期:平安時代(10世紀代)と想定される。遺物:土師器付甕・須恵器碗・須恵器坏・不明鉄製品・鉄滓の出土が見られる。

#### 5号住居跡(遺構:第15・16図、P.L. 3/遺物:第28図、第6表、P.L. 6)

位置:X=44195、Y=-77665グリッド。平面形態:長方形を呈するものと推測される。重複:7号住居跡・21号土坑と重複する。埋没土層の観察から7号住居跡は本住居跡よりも新しい。21号土坑との新旧関係は不明である。規模:3.33 m以上 × 3.13 m。残存深度:0.29 m。主軸方位:N-82°-E。柱穴:確認されなかった。壁周溝:確認されなかった。床面の状態:多少の凸凹は見られるが、比較的平坦である。カマド:住居跡東壁の南寄りに付設されている。焚き口から煙道までは0.74 mを測る。燃焼部と想定される部分は、火床面こそ確認されていないものやや窪んでおり、煙道は緩やかに立ち上がる。カマド内には0.26 m × 0.19 m、深さ0.08 mの小ピットが見られるが、これはカマドの芯材となる礎石を抜き取った痕跡と考えられる。遺構埋没状態:A s-Cを含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。なお、部分的に炭化物の混入が見られることから、焼失住居と考えられる。掘り方:A s-Cとローム粒を含む黒褐色を主体とした土により埋められている。掘り方の底面は北西側がやや浅む状態にある。遺物出土状態:住居跡南

側に偏在して出土している。また、カマドの構築材として使用していたものと推測される礫が床面直上から2点出土している。時期：平安時代（9世紀代）と想定される。遺物：土師器壺・須恵器碗・須恵器坏の出土が見られる。

#### 6号住居跡（遺構：第17・18図、P.L. 4／遺物：第28図、第6表、P.L. 6）

位置：X=44195・44200、Y=-77670・-77675グリッド。平面形態：方形ないし長方形を呈するものと推測されるが、住居跡のほとんどが調査区外へ延びるため詳細は不明である。重複：重複は見られない。規模：2.24 m以上×1.20 m以上。残存深度：0.17 m。主軸方位：N-82°-E。柱穴：確認されなかった。壁周溝：確認されなかった。床面の状態：多少の凸凹は見られるが、比較的平坦である。カマド：住居跡の南東コーナーに付設されている。焚き口から煙道までは1.05 mを測る。燃焼部と想定される部分は、火床面こそ確認されていないものやや窪んでおり、煙道は緩やかに立ち上がる。カマド内には袖の芯材として機能していたものと想定される礫が設置されている。遺構埋没状態：A s-Cを含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。掘り方：A s-Cとローム粒を含む暗褐色を主体とした土により埋められている。掘り方の底面はやや凸凹である。遺物出土状態：須恵器碗の出土がカマド内で目立つ。時期：平安時代（10世紀代）と想定される。遺物：土師器壺・須恵器碗・羽釜・不明鉄製品・鉄滓の出土が見られる。

#### 7号住居跡（遺構：第19・20図、P.L. 3／遺物：第29図、第7表、P.L. 7）

位置：X=44190・44195、Y=-77665・-77670グリッド。平面形態：方形ないし長方形を呈するものと推測される。重複：5号住居跡・17・20・21号土坑と重複する。埋没土層と出土遺物の観察から5号住居跡と20号土坑は本住居跡よりも古い。17・21号土坑との新旧関係は不明である。規模：3.59 m×2.85 m以上。残存深度：0.54 m。主軸方位：N-82°-E。柱穴：住居跡北西側で0.30 m×0.29 m、深さ0.18 mのビットが1基確認されているが、柱痕等の痕跡は捉えられていない。壁周溝：検出された部分においては北東コーナー（17号土坑付近）を除き全周する。床面の状態：多少の凸凹は見られるが、比較的平坦である。カマド：検出した範囲内においては確認されなかった。H-B'の上層断面において、東壁面付近で焼上の堆積が見られることから、東壁面に付設されているものと推測される。遺構埋没状態：A s-Cを含む黒褐色ないし暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。掘り方：ロームブロックを含む暗褐色を主体とした土により埋められている。掘り方の底面は比較的平坦である。住居跡の中央付近で0.67 m×0.51 m、深さ0.28 mの上坑が確認されており、ロームブロック・炭化材が含まれる暗褐色の上で埋没している。遺物出土状態：住居跡中央及び北東コーナーに集中する傾向にある。時期：平安時代（10世紀代）と想定される。遺物：須恵器碗・須恵器坏・灰釉陶器皿・羽釜・鉄滓の出土が見られる。

#### 8号住居跡（遺構：第21図）

1区北壁の東側（X=44205、Y=-77660グリッド）で確認された住居跡で、遺構のほとんどは調査区外へと延び、カマドの一部が数cmのみ調査区内に収まる状態である。このような状況から検出は不可能と考え、トレンチによる断ち割り調査を行うこととした。なお、カマドが付設される位置は南東コーナーと推測されるが、詳細を捉えるには至っていない。埋没上はカマド周辺であるため、焼上を含む暗褐色及び黒褐色の土が目立つ。なお、A s-Cの混入も埋没土には顕著に見られる。

### 3. 配石墓

1号配石墓（遺構：第23・24図、P.L. 4／遺物：第29図、第7表、P.L. 7）

位置：X=44205、Y=-77660 グリッド。平面形態：長方形を呈する。重複：24号上坑と重複する。埋没土層の観察から、24号土坑は本配石墓より古い。規模：長軸2.51m、短軸1.30m、深さ0.57m。主軸方位：N-5°-E。床面の状態：長さ15cm～30cm程の山石を敷き詰めており、山石は平坦面を上に向けた状態で斜置きされている。礎の隙間には小礫を詰め込み、隙間を埋めている。壁面の状態：礎の崩落が激しいものの、長さ5cm～45cm程の山石による乱石積みと想定される。遺構埋没状態：埋没土の中位～上位にかけて長さ5cm～20cm程にわたる山石の出土が目立つ。また、埋没上自体はAs-C及びロームブロックが含まれる黒褐色を主体とした人為的に攪拌された土により埋没している。掘り方：隅丸長方形を呈するものと想定される。壁面・底面の掘り方ともローム粒・As-Cを含む黒褐色を主体とした土により埋められている。遺物出土状態：埋没土の中位より木質の付着が見られる釘状の鉄製品が出土している。床面からは、ごく微量ながら骨片の出土が見られる。掘り方の壁面と側壁となる積まれた礎の間には、縦に差し込むような状態で、灰釉陶器碗・皿、須恵器杯が出土している。時期：平安時代（10世紀代）と想定される。遺物：須恵器杯・灰釉陶器碗・灰釉陶器皿・釘状の鉄製品・骨片の出土が見られる。

### 4. 溝

1号溝（遺構：第25図、P.L. 4／遺物：第29図、第7表、P.L. 7）

位置：X=44170・44175・44180、Y=-77645 グリッド。重複：3号住居跡及び5・6・14号土坑と重複する。埋没土層の観察から、本溝跡は、重複する全ての遺構よりも古い。形態：北北西から南南東方向へ向けて走行する。2区の北壁及び南壁に接し、さらに南北方向へ延びるものと想定される。断面形態：皿状を呈する。規模：上端幅0.92m～1.72m、下端幅0.43m～0.97m、深さ0.26m。主軸方位：N-14°-W。底面の状態：多少の凸凹が見られる状態で、南へ向けて標高が下がりがり5号上坑周辺では、明確な段差が捉えられている。2区の南端付近では低いテラス面を有する。遺構埋没状態：As-C及びローム粒を含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：底面からの出土は見られず、埋没土中から散在した状態で出土している。時期：平安時代（10世紀代）と想定される。遺物：須恵器杯・鉄滓・焼土塊の出土が見られる。

### 5. 土坑群

1号土坑群（遺構：第22図、P.L. 4／遺物：第30図、第7表、P.L. 7）

位置：X=44165・44170・44175、Y=-77645～-77650 グリッド。重複：1号住居跡及び8号土坑と重複する。埋没土層の観察から、本溝跡は、1号住居跡・8号上坑よりも古い。形態：大小含め100基以上の土坑が集中するもので北北西から南南東方向へ向けて走行する。2区の北壁及び南壁に接し、さらに南北方向へ延びるものと想定される。一見、溝状の遺構にも見て取れる。断面形態：各土坑の断面形状は様々で、皿状・逆台形状・「U」字状・不整形を呈するものが観察できる。規模：直径0.13m～0.86mの土坑が集中する。溝状の遺構と判断すると上端幅は0.57m～2.69mを測る。残存の深さは0.16m～1.00m。主軸方位：溝状の遺構と判断するとN-15°-Wを示し、1号溝とほぼ並走する状態にある。遺構埋没状態：As-C及びローム粒を含む黒褐色を主体とした土により埋没しているが、自然埋没のものと人為的埋没のものとの2種類の埋没過程を観察することができる。遺物出土状態：埋没土中から散在した状態で出土している。時

期：平安時代（10世紀代）と想定される。遺物：須恵器・羽釜の出土が見られる。

## 6. 土坑（遺構：第6・7図、第2表、P.L. 1・2／遺物：第30図、第8表、P.L. 8）

合計 27 基の土坑を確認するに至った。これらの土坑は、概ね平安時代と平安時代以降のものに大別でき、平安時代の土坑は 22 基で今回調査された竪穴住居跡に近似した埋没土を有するものである。これに対し、平安時代以降の土坑は 5 基を数え、埋没土中に A s - B が混入する状態にあった。

各土坑の計測値等は第 2 表に示した。

1号土坑	2	X=44165, Y=-77650・-77655	円	97×97	17	平安時代。自然埋没。
2号土坑	2	X=44165, Y=-77655	楕円	123×113	22	平安時代。自然埋没。
3号土坑	2	X=44165・44170 Y=-77650	円	97×92	30	平安時代。自然埋没。
4号土坑	2	X=44170, Y=-77655	楕円	53×45	16	A s - B 降下以後。自然埋没。
5号土坑	2	X=44170・44175 Y=-77645	円	83×-	18	平安時代。1号溝より新しい。自然埋没。
6号土坑	2	X=44170, Y=-77645	円	91×87	29	平安時代。1号溝より新しい。自然埋没。
7号土坑	2	X=44165・44170 Y=-77650	楕円	109×100	41	平安時代。自然埋没。
8号土坑	2	X=44165, Y=-77650	楕円	90×71	23	平安時代。1号土坑群より新しい。自然埋没。
9号土坑	1	X=44195, Y=-77655	楕円	75×67	22	平安時代。自然埋没。
10号土坑	1	X=44195・44200 Y=-77655	楕円	-×95	21	平安時代。自然埋没。
11号土坑	1	X=44200, Y=-77665	楕円	115×105	19	平安時代。自然埋没。
12号土坑	1	X=44195, Y=-77670	円	101×95	10	A s - B 降下以降。A s - B 多量含む。自然埋没。
13 a 号土坑	1	X=44195, Y=-77660	円	119×-	45	A s - B 降下以降。A s - B 多量含む。13 b・13 c 号土坑より新しい。自然埋没。
13 b 号土坑	1	X=44195, Y=-77660	楕丸長方	95×-	49	平安時代。13 a 号土坑より古く、13 c 号土坑より新しい。自然埋没。
13 c 号土坑	1	X=44195, Y=-77660	楕丸長方	-×-	26	平安時代。13 a・13 b 号土坑より古い。自然埋没。
14号土坑	2	X=44175, Y=-77645	楕円	87×84	67	平安時代。3号住居跡より新しい。自然埋没。
15号土坑	1	X=44195, Y=-77660	楕円	-×157	53	平安時代。自然埋没。A s - B 降下以後に掘り返される。
16号土坑	1	X=44195, Y=-77670	楕円	92×79	14	平安時代。自然埋没。
17号土坑	1	X=44190・44195 Y=-77665	円	82×78	27	平安時代。7号住居跡における壁面清の状態から、同住居跡に伴う可能性あり。自然埋没。須恵器環出土。
18号土坑	1	X=44200, Y=-77665	楕円	83×-	11	平安時代。4号住居跡との新旧関係は不明。自然埋没。
19号土坑	1	X=44200, Y=-77665	楕円	68×59	65	平安時代。4号住居跡との新旧関係は不明。自然埋没。
20号土坑	1	X=44195, Y=-77665	楕丸長方	-×-	14	平安時代。7号住居跡より古い。自然埋没。土師器甕出土。
21号土坑	1	X=44190・44195 Y=-77665・-77670	楕円	-×-	34	平安時代。5・7号住居跡との新旧関係は不明。焼土粒を微量含む。自然埋没。
22号土坑	1	X=44190, Y=-77670	楕円	66×55	8	平安時代。自然埋没。
23号土坑	2	X=44165, Y=-77650	楕円	60×53	19	平安時代。自然埋没。
24号土坑	1	X=44200, Y=-77660	楕丸長方?	-×-	33	平安時代。1号配石墓より古い。自然埋没。
25号土坑	1	X=44200, Y=-77660	楕円	69×63	7	平安時代。焼土粒・灰を少量含む。人為的埋没。

※ 単位：cm

第 2 表 土坑一覽表



## 7. ビット (遺構: 第6・7図、第3表、P.L. 1・2)

合計16基の土坑を確認するに至った。これらのビットは、概ね平安時代に帰属するものと考えられ、今回調査された堅穴住居跡に近似した埋没上を有するものである。P1～P4は等間隔に配列するようにも見え、掘立柱建物跡の可能性を有するのかもしれない。また、P10～P16は5号住居跡の周囲を巡るような状態で確認されており、住居跡に付随する壁外柱穴のあり方に近似したものである。しかし、これらビットの掘り込み自体は垂直方向に掘り込まれていることから、壁外柱穴として機能していた可能性までに留めておきたい。

各ビットの計測値等は第3表に示した。

P 1	2	X =44166, Y =-77650	楕円	42 × 33	14	平安時代, 自然埋没, 掘立柱建物跡の柱穴?
P 2	2	X =44166, Y =-77650	楕円	37 × 30	27	平安時代, 自然埋没, 掘立柱建物跡の柱穴?
P 3	2	X =44170, Y =-77655	楕円	30 × 25	25	平安時代, 自然埋没, 掘立柱建物跡の柱穴?
P 4	2	X =44170, Y =-77650	楕円	38 × 32	26	平安時代, 自然埋没, 掘立柱建物跡の柱穴?
P 5	2	X =44170, Y =-77656	楕円	26 × 22	27	平安時代, 自然埋没,
P 6	2	X =44170, Y =-77646	楕円	29 × 23	53	平安時代, 自然埋没,
P 7	2	X =44170, Y =-77646	楕円	37 × 25	25	平安時代, 自然埋没,
P 8	1	X =44200, Y =-77660	楕円	54 × 43	10	平安時代, 自然埋没,
P 9	1	X =44200, Y =-77660	楕円	48 × 34	40	平安時代, 自然埋没,
P 10	1	X =44196, Y =-77665	円	24 × 23	16	平安時代, 自然埋没, 5号住居跡の壁外柱穴?
P 11	1	X =44196, Y =-77665	楕円	50 × 37	12	平安時代, 自然埋没, 5号住居跡の壁外柱穴?
P 12	1	X =44196, Y =-77665	円	26 × 24	17	平安時代, 自然埋没, 5号住居跡の壁外柱穴?
P 13	1	X =44196, Y =-77665	楕円	41 × 32	30	平安時代, 自然埋没, 5号住居跡の壁外柱穴?
P 14	1	X =44196, Y =-77665	円	31 × 28	15	平安時代, 自然埋没, 5号住居跡の壁外柱穴?
P 15	1	X =44196, Y =-77665	円	29 × 28	21	平安時代, 自然埋没, 5号住居跡の壁外柱穴?
P 16	1	X =44196, Y =-77665	楕円	37 × 36	11	平安時代, 自然埋没, 5号住居跡の壁外柱穴?

※ 単位: cm

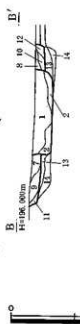
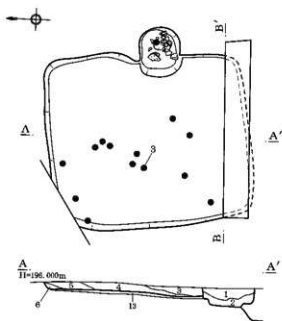
第3表 ビット一覧表

## 8. 遺構外出土遺物 (遺物: 第30図、第8表、P.L. 8)

遺構外出土遺物として12点の遺物を掲示した。掲示した遺物は、今回調査された遺構とは時期を異とするものを主に選出している。なお、掲載こそしなかったものの、当然ながら本報告の主体となる平安時代の遺物も多数出土している。

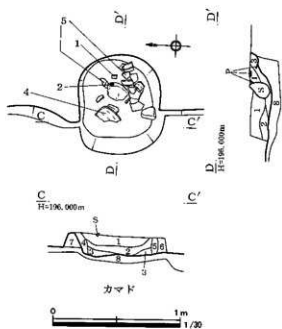
掲載遺物を概観すると、(1)～(3)は縄文土器で(1)は中期後半に比定される加曾利EⅢ式、(2)は後期初頭～中葉と額を持たせて考えたい。(3)は後期初頭の称名寺1式と想定される。(4)は弥生時代後期の構式土器、(5)・(6)は8世紀代に帰属するものとする宝珠及び環状の積みが付く須恵器蓋である。(8)～(12)は縄文時代の石器で(7)・(8)は黒曜石製の石鎌と石核、(9)・(10)は頁岩製のスクレイパー、(11)は角閃石安山岩製で磨石として使用後敲石として機能したもの、(12)は安山岩製の磨石である。(13)は鉄滓で4・6号住居跡及び1号溝からも類似品が出土している。

相馬ヶ原扇状地において、井野川左岸の台地上では弥生時代後期の遺跡群が散見されるものの、本遺跡が立地する生原遺跡群では、該期の遺構及び遺物の確認はなされていなかった。今回出土した弥生時代後期の土器(4)は破片資料であるものの、生原遺跡群における弥生時代後期の土地利用を考える上で貴重な資料と言えよう。



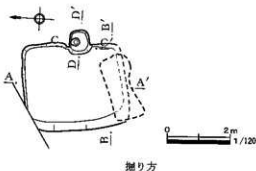
1号住居跡土層説明

1. 暗褐色土 A s - B φ0.2cm中量, A s - C φ0.2cm・ローム粒少量含む, しまり強, 粘性弱。
2. 暗褐色土 A s - B φ0.2cm多量, A s - C φ0.2cm・ローム粒少量含む, しまり強, 粘性弱。
3. 暗褐色土 A s - C φ0.2~0.5cm多量含む, しまりあり, 粘性ややあり。
4. 暗褐色土 A s - C φ0.2~0.5cm多量, ローム粒少量, 黄褐色粒φ0.2cm散在含む, しまりあり, 粘性ややあり。
5. 暗褐色土 A s - C φ0.2~0.5cm中量, ローム粒散在含む, しまりあり, 粘性ややあり。
6. 暗褐色土 A s - C φ0.2cm少量, 黄褐色粒石φ0.2cm散在含む, しまりあり, 粘性ややあり。
7. 暗褐色土 A s - C φ0.2~1.0cm多量含む, しまりあり, 粘性ややあり。
8. 暗褐色土 A s - C φ0.2~0.5cm多量含む, しまりあり, 粘性ややあり。
9. 暗褐色土 A s - C φ0.2~1.0cm多量, ローム粒散在含む, しまりあり, 粘性ややあり。
10. 暗褐色土 A s - C φ0.2~0.5cm中量, ローム粒散在含む, しまりあり, 粘性ややあり。
11. 暗褐色土 A s - C φ0.2~0.5cm中量, ローム粒少量含む, しまりあり, 粘性ややあり。
12. 暗褐色土 A s - C φ0.2~0.5cm中量, ローム粒中量含む, しまりあり, 粘性ややあり, 肥床。
13. 暗褐色土 A s - C φ0.2~0.5cm・ローム粒少量含む, しまり強, 粘性ややあり, 肥床。
14. 暗褐色土 A s - C φ0.2~0.5cm少量含む, しまりあり, 粘性ややあり, 肥床。



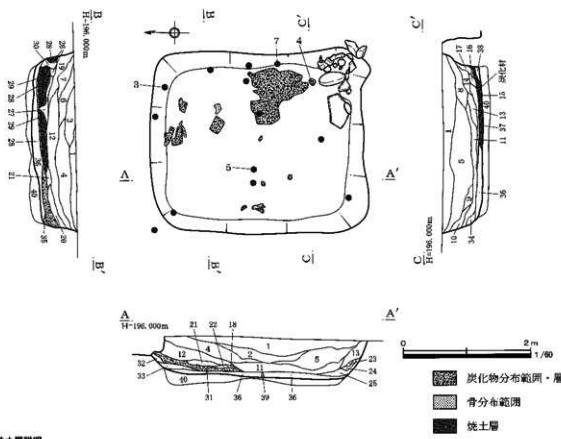
1号住居跡カマド土層説明

1. 暗褐色土 A s - C φ0.2~0.5cm多量, 炭化物少量, 黄褐色粒φ0.2cm散在含む, しまりあり, 粘性ややあり。
2. 暗褐色土 A s - C φ0.2~0.5cm中量, 炭化物少量, 黄褐色粒φ0.2cm・焼土塊少量含む, しまりあり, 粘性ややあり。
3. 暗褐色土 A s - C φ0.2~0.5cm中量, 炭化物少量, 黄褐色粒φ0.2cm散在含む, しまりあり, 粘性ややあり。
4. 暗褐色土 A s - C φ0.2~0.5cm中量, 黄褐色粒石φ0.2cm散在含む, しまりあり, 粘性ややあり。
5. 暗褐色土 焼土多量, A s - C φ0.2~0.5cm少量, 黄褐色粒φ0.2cm散在含む, しまりあり, 粘性ややあり。
6. 暗褐色土 A s - C φ0.2~0.5cm中量, 黄褐色粒石φ0.2cm散在含む, しまりあり, 粘性ややあり。
7. 暗褐色土 白色結石・ローム粒少量, A s - C φ0.2~0.5cm少量含む, しまりあり, 粘性あり。
8. 暗褐色土 A s - C φ0.2~0.5cm・ローム粒少量含む, しまり強, 粘性ややあり。



掘り方

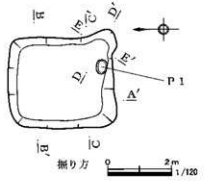
第8図 1号住居跡



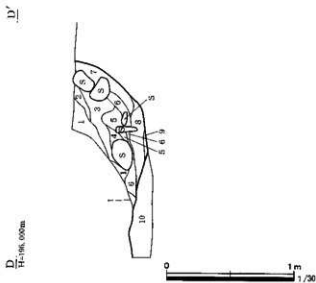
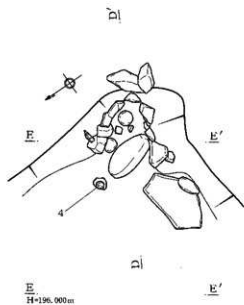
2号住居跡土層説明

1. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm多量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm多量。黄褐色砂石φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土 A s-C φ0.2~1.0cm多量。炭化物微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm多量。黄褐色砂石φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量。黄褐色砂石φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黒褐色土 A s-C φ0.2~1.0cm中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 黒褐色土 A s-C φ0.2~1.0cm中量。炭化物・焼土和微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
9. 黒褐色土 A s-C φ0.2~1.0cm中量。炭化物・焼土和微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
10. 黒褐色土 A s-C φ0.2~1.0cm中量。ローム粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
11. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量。黄褐色砂石φ0.2cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
12. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量。黄褐色砂石φ0.2cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
13. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
14. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
15. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
16. 黒褐色土 A s-C φ0.2~1.0cm中量。ローム粒・炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
17. 黒褐色土 A s-C φ0.2~1.0cm中量。ローム粒・炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
18. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
19. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
20. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
21. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
22. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
23. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
24. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
25. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
26. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
27. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm。焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
28. 黒褐色土 A s-C φ0.2~1.0cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。土層境界の高低。29層片領域であるが。炭土化が強い。
29. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。層境材と推測される。
30. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm。焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
31. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
32. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
33. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
34. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
35. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
36. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

37. 黒褐色土 A s-C φ0.2~1.0cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。土層境界の高低。29層片領域であるが。炭土化が強い。
38. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
39. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
40. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm。炭化物・焼土和少量含む。しまりあり。粘性ややあり。



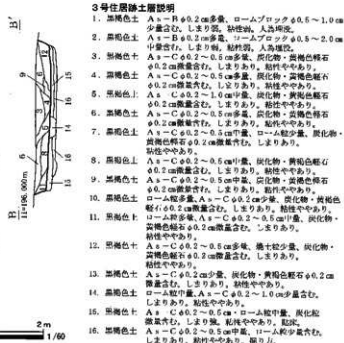
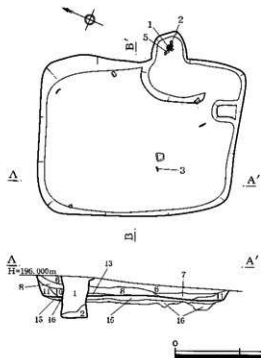
第9図 2号住居跡①



2号住居跡カマド土層説明

1. 黒褐色土: A s - C φ0.2~0.5cm多量、焼十粒・炭化粒少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
2. 黒褐色土: 白色粘土ブロックφ0.5cm中量、A s - C φ0.2~0.5cm少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
3. 黒褐色土: A s - C φ0.2~0.5cm・焼十粒・炭化粒少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
4. 黒褐色土: 焼十粒中量、A s - C φ0.2~0.5cm少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
5. 褐色土: 焼土ブロックφ0.5~3.0cm多量、A s - C φ0.2~0.5cm・炭化粒少量含む。しまりあり、粘性あり。
6. 黒色土: 灰多量、焼土粒中量、炭化粒少量、A s - C φ0.2~0.5cm少量含む。しまり弱、粘性弱。
7. 黒褐色土: A s - C φ0.2~0.5cm・ローム粒・白粉粒ブロックφ0.5~1.0cm少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
8. 黒褐色土: 灰多量、焼土ブロックφ0.5cm中量、炭化粒少量含む。しまり弱、粘性弱。
9. 褐色土: 焼土ブロックφ0.5~1.0cm多量、灰少量含む。しまり強、粘性弱。
10. 暗褐色土: ロームブロックφ0.5~2.0cm中量、A s - C φ0.2~0.5cm・炭化粒少量含む。しまり強、粘性ややあり。廻り方。

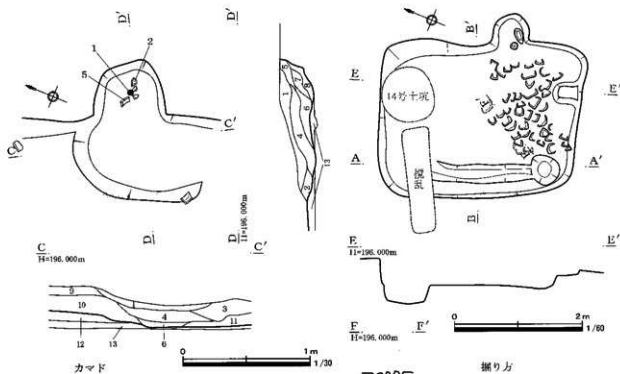
第10図 2号住居跡②



3号住居跡土層説明

1. 黒褐色土: A s - B φ0.2cm多量、ロームブロックφ0.5~1.0cm少量含む。しまり弱、粘性強、人為堆積。
2. 黒褐色土: A s - B φ0.2cm多量、ロームブロックφ0.5~2.0cm少量含む。しまり弱、粘性強、人為堆積。
3. 黒褐色土: A s - C φ0.2~0.5cm多量、炭化物・黄褐色軽石φ0.2cm少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
4. 黒褐色土: A s - C φ0.2~0.5cm多量、炭化物・黄褐色軽石φ0.2cm少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
5. 黒褐色土: A s - C φ0.2~1.0cm中量、炭化物・黄褐色軽石φ0.2cm少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
6. 黒褐色土: A s - C φ0.2~0.5cm中量、炭化物・黄褐色軽石φ0.2cm少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
7. 黒褐色土: A s - C φ0.2~0.5cm中量、ローム粒少量、炭化物・黄褐色軽石φ0.2cm少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
8. 黒褐色土: A s - C φ0.2~0.5cm中量、炭化物・黄褐色軽石φ0.2cm少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
9. 黒褐色土: A s - C φ0.2~0.5cm中量、炭化物・黄褐色軽石φ0.2cm少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
10. 黒褐色土: ローム粒多量、A s - C φ0.2cm少量、炭化物・黄褐色軽石φ0.2cm少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
11. 黒褐色土: ローム粒多量、A s - C φ0.2~0.5cm中量、炭化物・黄褐色軽石φ0.2cm少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
12. 黒褐色土: A s - C φ0.2~0.5cm多量、焼十粒少量、炭化物・黄褐色軽石φ0.2cm少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
13. 黒褐色土: A s - C φ0.2cm中量、炭化物・黄褐色軽石φ0.2cm少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
14. 黒褐色土: ローム粒中量、A s - C φ0.2~1.0cm少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
15. 黒褐色土: A s - C φ0.2~0.5cm・ローム粒中量、炭化粒少量含む。しまり強、粘性ややあり。廻り方。
16. 黒褐色土: A s - C φ0.2~0.5cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり、粘性ややあり。廻り方。

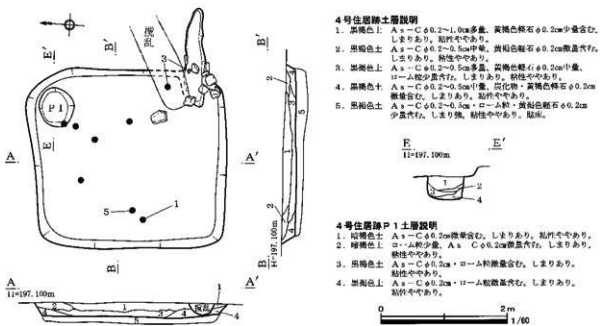
第11図 3号住居跡①



### 3号住居跡カマド土層説明

1. 黒褐色土 A×C φ0.2~0.5cm中量、ロームブロックφ0.5cm微量含む、しまりあり、粘性ややあり。
2. 黒褐色土 A×C φ0.2cm少量、炭化灰微量含む、しまりあり、粘性ややあり。
3. 黒褐色土 A×C φ0.2~0.5cm中量、ロームブロックφ0.5cm少量含む、しまりあり、粘性ややあり。
4. 黒褐色土 A×C φ0.2~0.5cm中量、ロームブロックφ0.5cm・炭化灰・焼土粒少量含む、しまりあり、粘性ややあり。
5. 黒褐色土 炭土粒少量、A×C φ0.2~0.5cm・ロームブロックφ0.5cm・炭化灰少量含む、しまりあり、粘性あり。
6. 暗褐色土 A×C φ0.2~0.5cm・炭化灰・焼土粒・白色粘土ブロックφ0.5cm・灰土粒少量含む、しまりあり、粘性あり。
7. 暗褐色土 焼土ブロックφ0.6~2.0cm中量、A×C φ0.2~0.5cm・炭化灰少量含む、しまりあり、粘性あり。
8. 黒褐色土 灰多量、白色粘土粒少量、A×C φ0.2~0.5cm・炭化灰・焼土粒微量含む、しまりあり、粘性弱。
9. 黒褐色土 A×C φ0.2~0.5cm少量、炭化物・黄褐色砂石φ0.2cm微量含む、しまりあり、粘性ややあり。
10. 黒褐色土 ローム粒多量、A×C φ0.2cm少量、炭化物・黄褐色砂石φ0.2cm微量含む、しまりあり、粘性ややあり。
11. 黒褐色土 A×C φ0.2~0.5cm中量、ローム粒少量含む、しまりあり、粘性ややあり。
12. 黒褐色土 A×C φ0.2~0.5cm・ローム粒中量、炭化灰微量含む、しまり強、粘性ややあり、取戻。
13. 黒褐色土 A×C φ0.2~0.5cm中量、ローム粒少量含む、しまりあり、粘性ややあり、掘り方。

第12図 3号住居跡②



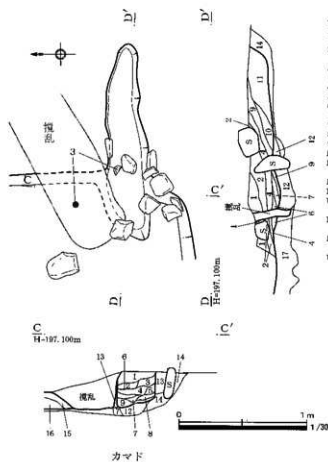
### 4号住居跡土層説明

1. 赤褐色土 A×C φ0.2~1.0cm多量、黄褐色砂石φ0.2cm少量含む、しまりあり、粘性ややあり。
2. 黒褐色土 A×C φ0.2~0.5cm中量、黄褐色砂石φ0.2cm微量含む、しまりあり、粘性ややあり。
3. 黒褐色土 A×C φ0.2~0.5cm中量、黄褐色砂石φ0.2cm中量、ローム粒少量含む、しまりあり、粘性ややあり。
4. 黒褐色土 A×C φ0.2~0.5cm中量、炭化物・黄褐色砂石φ0.2cm微量含む、しまりあり、粘性ややあり。
5. 黒褐色土 A×C φ0.2~0.5cm・ローム粒・黄褐色砂石φ0.2cm少量含む、しまり強、粘性ややあり、掘り方。

### 4号住居跡P1土層説明

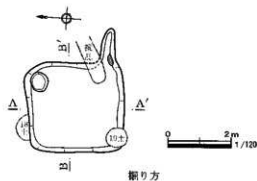
1. 暗褐色土 A×C φ0.2cm微量含む、しまりあり、粘性ややあり。
2. 暗褐色土 ローム粒少量、A×C φ0.2cm微量含む、しまりあり、粘性ややあり。
3. 暗褐色土 A×C φ0.2cm・ローム粒微量含む、しまりあり、粘性ややあり。
4. 黒褐色土 A×C φ0.2cm・ローム粒微量含む、しまりあり、粘性ややあり。

第13図 4号住居跡①

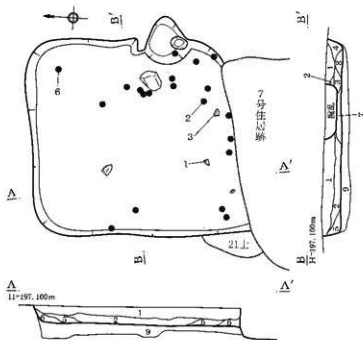


#### 4号住居跡カマド土層説明

1. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm・焼土粒少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
2. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm・焼土粒少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
3. 褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
4. 黒褐色土 A=Cφ0.2cm・焼土粒少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
5. 褐色土 焼土粒少量、A=Cφ0.2cm少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
6. 濃い黄褐色土 粘質。焼土粒少量、A=Cφ0.2cm少量含む、しりりあり、粘性あり。
7. 黒褐色土 A=Cφ0.2cm・焼土粒少量含む、しりりあり、粘性あり。
8. 褐色土 焼土粒少量、A=Cφ0.2cm少量含む、しりりあり、粘性あり。
9. 黒褐色土 焼土粒少量、A=Cφ0.2cm少量含む、しりりあり、粘性あり。
10. 褐色土 焼土粒少量、A=Cφ0.2cm少量含む、しりりあり、粘性あり。
11. 褐色土 焼土粒少量、A=Cφ0.2~0.5cm中量含む、しりりあり、粘性ややあり。
12. 黒褐色土 灰少量、A=Cφ0.2cm・焼土粒少量含む、しりりあり、粘性弱。
13. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm少量含む、しりりあり、粘性やや弱。
14. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm・焼土粒少量、炭化物・黄褐色粒石φ0.2cm少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
15. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm中量、黄褐色粒石φ0.2cm少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
16. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm中量、炭化物・黄褐色粒石φ0.2cm少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
17. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm・ローム粒・黄褐色粒石φ0.2cm少量含む、しりりあり、粘性ややあり。



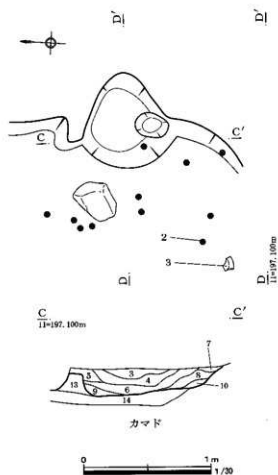
第14図 4号住居跡②



#### 5号住居跡土層説明

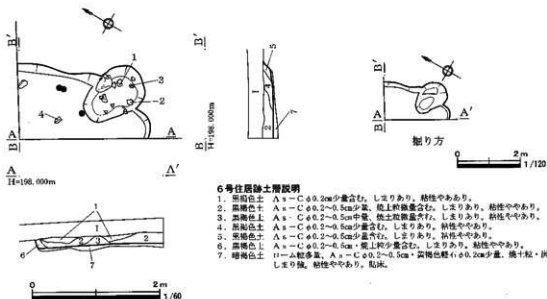
1. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm少量、黄褐色粒石φ0.2cm少量、炭化物少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
2. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm中量、黄褐色粒石φ0.2cm少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
3. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm少量、黄褐色粒石φ0.2cm少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
4. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm少量、褐色粒φ0.2cm少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
5. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm中量含む、しりりあり、粘性ややあり。
6. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm少量、焼土粒・炭化物少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
7. 黒褐色土 A=Cφ0.2cm中量、褐色粒φ0.2cm少量、炭化物少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
8. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm中量、焼土粒・褐色粒φ0.2cm少量、炭化物少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
9. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm・ローム粒・黄褐色粒石φ0.2~0.5cm少量含む、しりりあり、粘性ややあり、粘状。

第15図 5号住居跡①



- 5号住居跡カマド土層説明**
1. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm多量、ローム粒少量、褐色粒φ0.2cm微量含む、しりりあり、粘性ややあり。
  2. 暗褐色土 褐色粒φ0.2cm多量、A=Cφ0.2~0.5cm・炭土粒少量、炭化粒微量含む、しりりあり、粘性ややあり。
  3. 暗褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm多量、焼土粒少量、褐色粒φ0.2cm微量含む、しりりあり、粘性ややあり。
  4. 暗褐色土 焼土粒少量φ0.2~1.0cm多量、A=Cφ0.2~0.5cm・炭化粒少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
  5. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm中量含む、しりりあり、粘性ややあり。
  6. 暗褐色土 焼土粒少量φ0.5~1.0cm多量、A=Cφ0.2~0.5cm少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
  7. 黒褐色土 A=Cφ0.2cm少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
  8. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm多量、炭土粒少量、炭化粒微量含む、しりりあり、粘性ややあり。
  9. 黒褐色土 A=Cφ0.2cm微量含む、しりりあり、粘性ややあり。
  10. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm多量、焼土粒微量含む、しりりあり、粘性ややあり。
  11. 黒褐色土 炭土粒・炭化粒少量、A=Cφ0.2cm微量含む、しりりあり、粘性ややあり。
  12. 暗褐色土 焼土粒・褐色粒φ0.2~0.5cm少量、A=Cφ0.2~0.5cm微量含む、しりりあり、粘性ややあり。
  13. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
  14. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm・ローム粒少量、焼土粒・炭化粒微量含む、しりりやや強、粘性ややあり、肥り方。

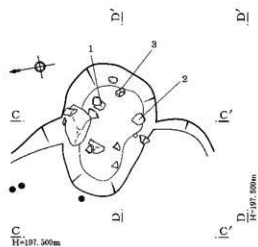
第16図 5号住居跡②



**6号住居跡土層説明**

1. 黒褐色土 A=Cφ0.2cm少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
2. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm少量、炭土粒微量含む、しりりあり、粘性ややあり。
3. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm中量、炭土粒微量含む、しりりあり、粘性ややあり。
4. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
5. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
6. 黒褐色土 A=Cφ0.2~0.5cm・炭土粒少量含む、しりりあり、粘性ややあり。
7. 暗褐色土 ローム粒多量、A=Cφ0.2~0.5cm・炭褐色粒φ0.2cm少量、焼土粒・炭化粒微量含む、しりり強、粘性ややあり、肥り方。

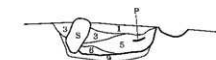
第17図 6号住居跡①



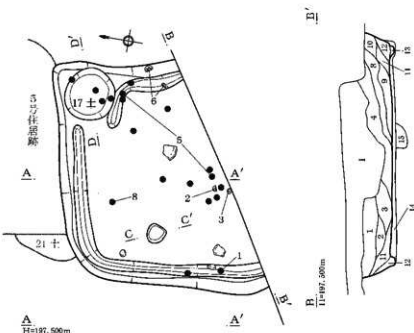
カマド



第18図 6号住居跡②



- 6号住居跡カマド土層説明
- 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中層、焼十粒・赤褐色磁石 φ0.2cm少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
  - 赤褐色土 焼十粒・赤褐色磁石 φ0.2cm多量。A s-C φ0.2~0.5cm少量。黄褐色磁石 φ0.2cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  - 赤褐色土 焼十粒・赤褐色磁石 φ0.2cm多量。A s-C φ0.2~0.5cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  - 黒褐色土 炭化物多量。A s-C φ0.2~0.5cm中層。焼十粒・赤褐色磁石 φ0.2cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  - 暗褐色土 焼十粒中層。A s-C φ0.2~0.5cm。黄褐色磁石 φ0.2cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  - 黒褐色土 焼十粒中層。A s-C φ0.2cm。赤褐色磁石 φ0.2cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  - 暗褐色土 A s-C φ0.2cm中層。焼十粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  - 黒褐色土 A s-C φ0.2cm。ロームブロック・黄褐色磁石 φ0.2cm少量。炭化物少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  - 暗褐色土 A s-C φ0.5~1.0cm。焼十粒中層。A s-C φ0.2cm。炭化物・炭少量。ロームブロック少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

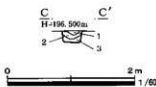


第19図 7号住居跡①

- 7号住居跡土層説明
- 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm多量。黄褐色磁石 φ0.2cm少量。炭化物微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  - 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中層。黄褐色磁石 φ0.2cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  - 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm少量。焼十粒・黄褐色磁石 φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  - 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  - 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中層。黄褐色磁石 φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  - 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm少量。黄褐色磁石 φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  - 黒褐色土 焼十粒多量。A s-C φ0.2cm少量。黄褐色磁石 φ0.2cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  - 黒褐色土 A s-C φ0.2~1.0cm多量。黄褐色磁石 φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  - 暗褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中層。ロームブロック φ0.5~2.0cm。黄褐色磁石 φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  - 黒褐色土 A s-C φ0.2~1.0cm多量。黄褐色磁石 φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  - 黒褐色土 焼十粒多量。A s-C φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  - 暗褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm。ロームブロック少量。黄褐色磁石 φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  - 暗褐色土 A s-C φ0.2~1.0cm多量。炭化物少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

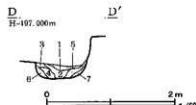
A H=197.500m





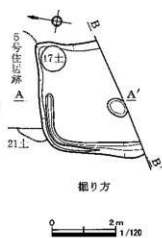
7号住居跡P1土層説明

1. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm少量、ローム粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 暗褐色土 ローム粒少量、A s-C φ0.1cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 暗褐色土 ローム粒多量、A s-C φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

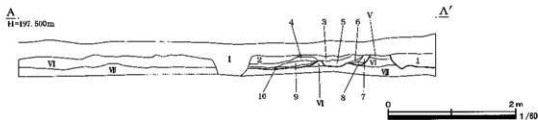


17号土坑土層説明

1. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土 ローム粒少量、A s-C φ0.2~0.5cm少量、黄褐色砂石φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm少量、ローム粒・黄褐色砂石φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm少量、黄褐色砂石φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm少量、ローム粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 黒褐色土 ローム粒多量、A s-C φ0.2~0.5cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。



第20図 7号住居跡②

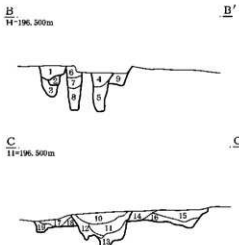


8号住居跡土層説明

1. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm多量、黄褐色砂石φ0.2cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。24号土坑埋設土。
2. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量、粘土粒・黄褐色砂石φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量、粘土粒・黄褐色砂石φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm少量、粘土粒・黄褐色砂石φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量、粘土粒・黄褐色砂石φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 暗褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm・焼土粒多量、炭化粒・黄褐色砂石φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm多量、黄褐色砂石φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm少量、黄褐色砂石φ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
9. 黒褐色土 焼土粒中量、A s-C φ0.2~0.5cm・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
10. 黒褐色土 A s-C φ0.2cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

※ 平面図のセクションポイントは「第6図 1区全体図」を参照

第21図 8号住居跡

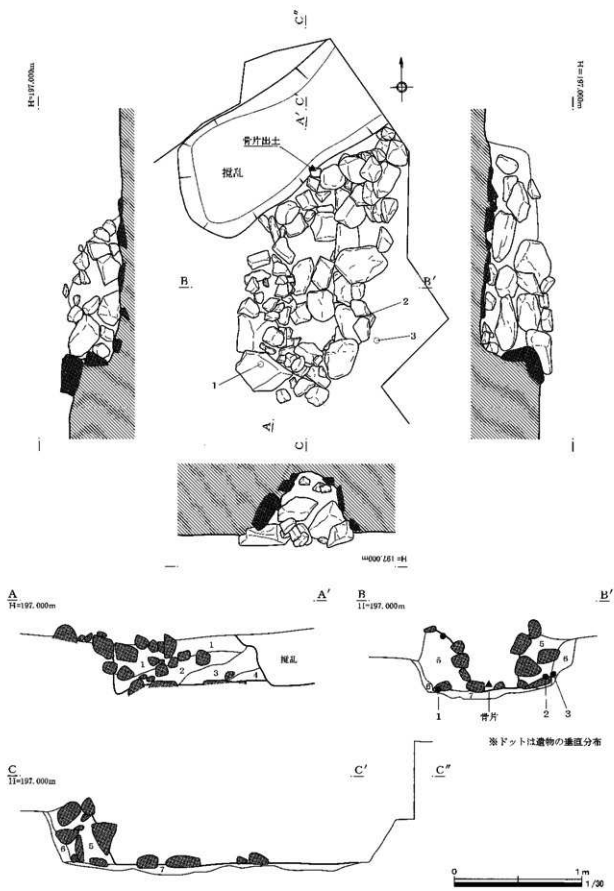


1号土坑土層説明

1. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm多量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm・ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土 ローム粒少量、A s-C φ0.2~0.5cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm多量、炭化粒・焼土粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土 ローム粒中量、A s-C φ0.2~0.5cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
9. 黒褐色土 A s-C φ0.2~1.0cm多量、焼土粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
10. 黒褐色土 A s-C φ0.2~1.0cm多量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
11. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm・ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
12. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
13. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
14. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
15. 黒褐色土 A s-C φ0.2~1.0cm多量含む。しまりあり。粘性ややあり。
16. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
17. 黒褐色土 A s-C φ0.2~1.0cm多量、ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
18. 暗褐色土 ローム粒中量、A s-C φ0.2~0.5cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
19. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

※ 平面図のセクションポイントは「第7図 2区全体図」を参照

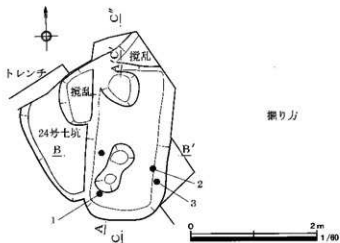
第22図 1号土坑



第23図 1号配石墓①

1号配石墓土層説明

1. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm中量。ロームブロックφ0.5~1.0 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm。ロームブロックφ0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm・ロームブロックφ0.3~1.0 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 黒褐色土 A s-C φ0.2 cm。ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黒褐色土 A s-C φ0.2 cm少量。ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 黒褐色土 コーム粒少量。A s-C φ0.2 cm散発含む。しまりあり。粘性ややあり。



第24図 1号配石墓②

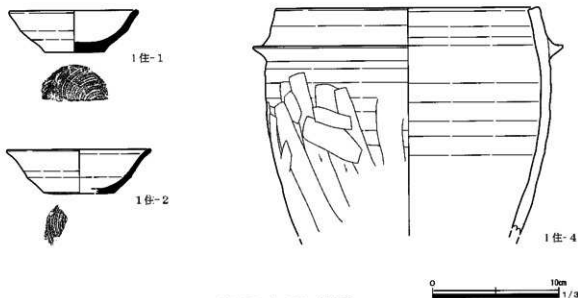


1号溝土層説明

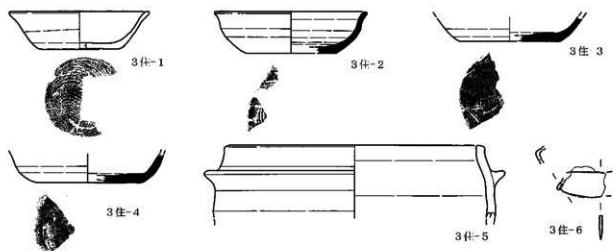
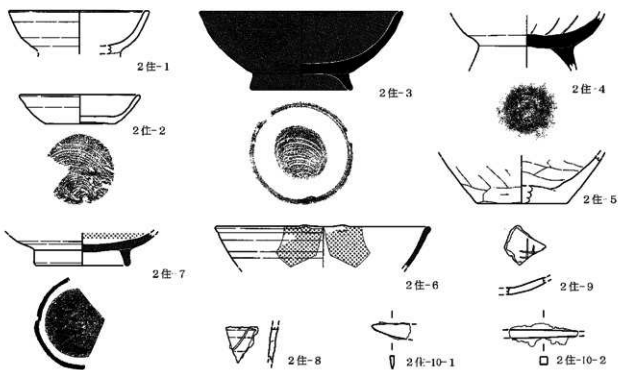
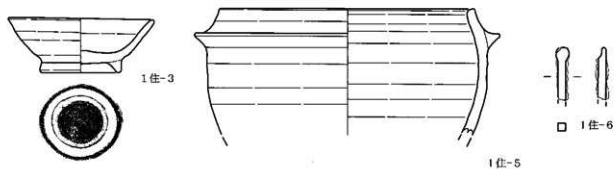
1. 黒褐色土 A s-C φ0.2~1.0 cm多量。ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm中量。ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm。ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm中量。ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm中量。ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 黒褐色土 ローム粒多量。A s-C φ0.2~0.5 cm中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm多量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm中量。ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
9. 黒褐色土 A s-C φ0.2~0.5 cm多量。ロームブロックφ0.5~2.0 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
10. 黒褐色土 ロームブロックφ0.5~2.0 cm中量。A s-C φ0.2~0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

※ 平面図のセクションポイントは「第7図 2区半体図」を参照

第25図 1号溝

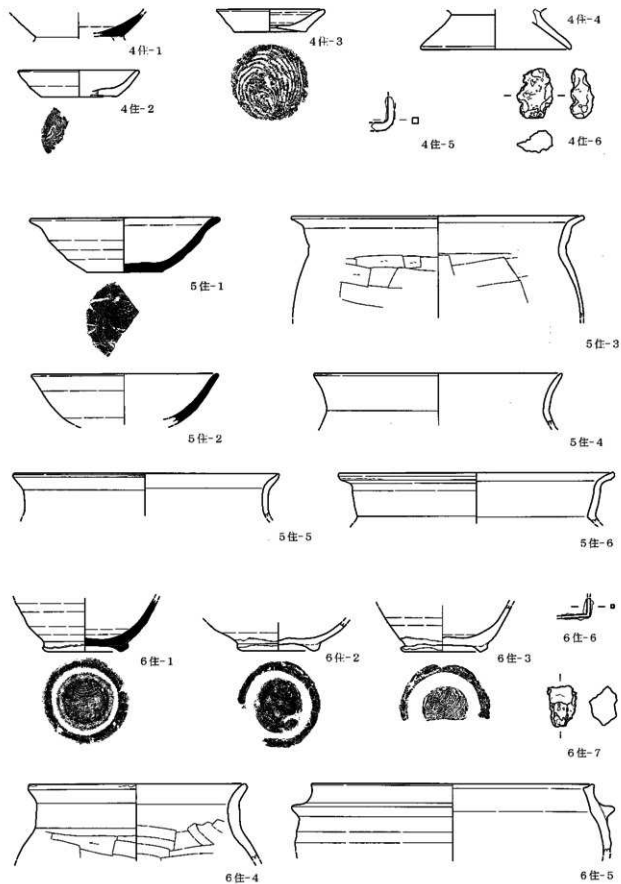


第26図 出土遺物実測図①



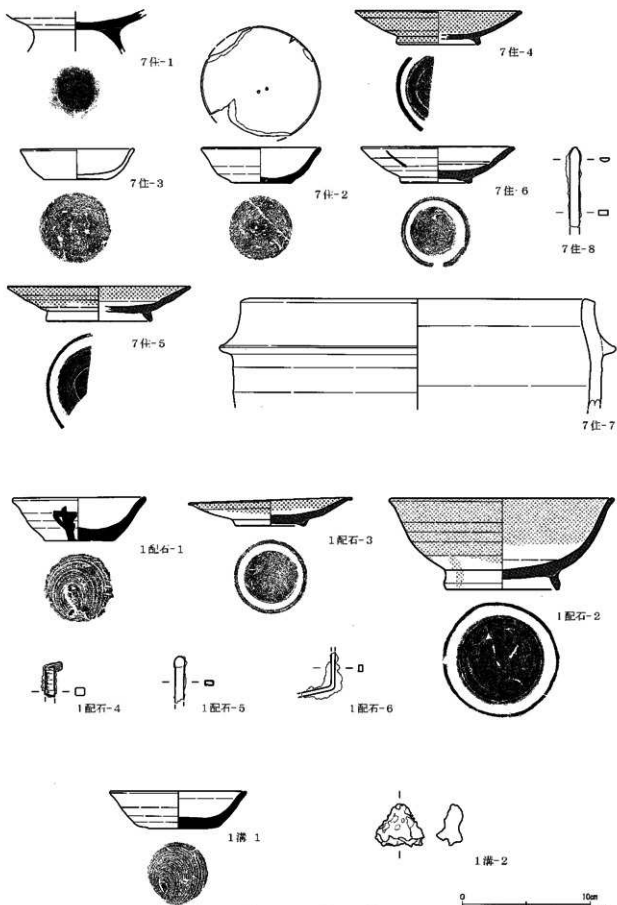
第27图 出土遺物実測図②



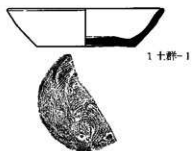


第28图 出土遺物実測図③





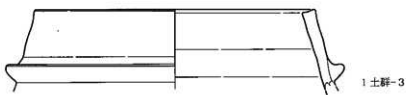
第29圖 出土遺物実測図④



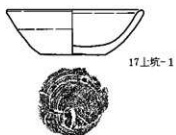
1土群-1



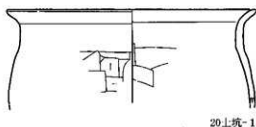
1土群-2



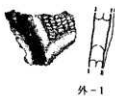
1土群-3



17上坑-1



20上坑-1



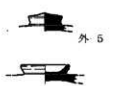
外-1



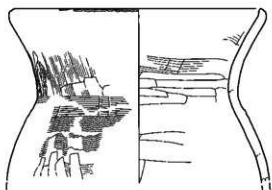
外-2



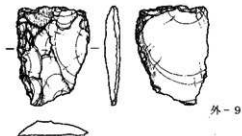
外-3



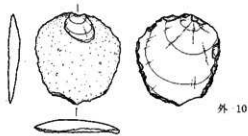
外-5



外-4



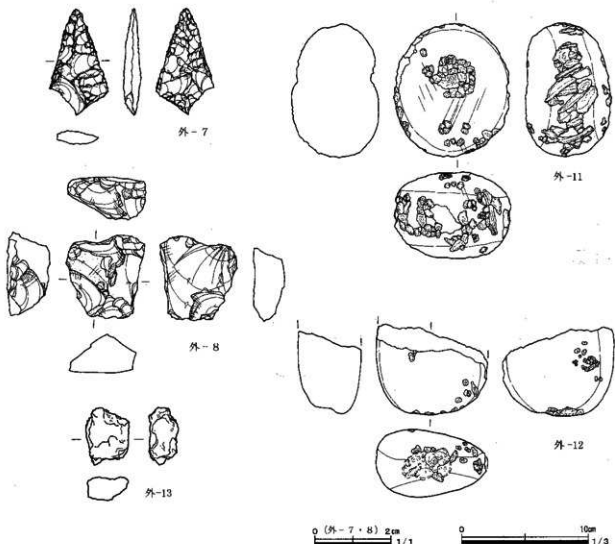
外-9



外-10



第30圖 出土遺物実測図⑤



第31圖 出土遺物実測図⑥

1号住居跡

1	須恵器 杯	口径 (9.8) 底径 4.6 器高 3.3	①酸化気味 ②橙～灰色 ③白色粒・褐色粒 ④ 1/3	外面 轆轤形、底部右回転糸切り。 内面 轆轤形。	—
2	須恵器 杯	口径 (11.2) 底径 (5.6) 器高 3.5	①酸化気味 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・角閃石 ④ 1/8	外面 轆轤形、底部回転糸切り。 内面 轆轤形。	—
3	須恵器 碗	口径 (11.2) 底径 6.0 器高 4.4	①酸化 ②明赤褐色 ③白色粒・褐色粒・角閃石 ④ 2/3	外面 轆轤形、底部切り離し不明瞭。 内面 轆轤形。	—
4	羽釜	口径 (20.8) 底径 — 器高 —	①還元 ②黄灰色 ③白色粒・褐色粒・鐵 ④口縁部～胴部中位 2/5	外面 轆轤形、胴部中位～下位筋削り。 内面 轆轤形。	1号土坑群山 土遺物と接合
5	羽釜	口径 (20.0) 底径 — 器高 —	①酸化 ②暗灰～褐色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～胴部中位 1/5	外面 轆轤形。 内面 轆轤形。	3号住居方 出土遺物と接 合
6	鉄製品	不明品	残存長 4.15 幅 0.6 厚さ 0.6 重さ 5.6 g		

第4表 出土遺物観察表①



## 2号住居跡

1	須恵器 碗	口径(10.8) 底径 -- 器高 --	①酸化 ②棕色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～底部1/6	外面 輪縁整形。 内面 輪縁整形。	--
2	須恵器 坪	口径 9.3 底径 5.5 器高 2.3	①酸化 ②にぶい棕色 ③黒色粒 ④1/2	外面 輪縁整形、底部右回転糸切り。 内面 輪縁整形。	--
3	黒色土器 碗	口径(16.8) 底径 7.8 器高 6.2	①酸化気味 ②黒色 ③白色粒・黄粒 ④1/2	外面 輪縁整形、口縁部～底部施磨き、黒色処理。 内面 輪縁整形、口縁部～底部施磨き、黒色処理。	--
4	須恵器 碗	口径 -- 底径 -- 器高 --	①酸化 ②にぶい黄棕色 ③角閃石 ④体部下位～高台部上位2/3	外面 輪縁整形、底部回転盤で。 内面 輪縁整形、体部に焼成前磨刻か。	--
5	羽釜	口径 -- 底径(7.0) 器高 --	①酸化 ②にぶい褐色 ③白色粒・角閃石 ④胴部下位～底部2/5	外面 胴部～底部施磨り。 内面 胴部～底部施磨で。	--
6	灰釉陶器 輪花鏡	口径(16.6) 底径 -- 器高 --	①還元 ②灰白色 ③黒色粒 ④口縁部～体部破片	外面 輪縁整形。 内面 輪縁整形。	--
7	灰釉陶器 碗	口径 -- 底径(7.2) 器高 --	①還元 ②灰白色 ③白色粒・黒色粒 ④体部下位～高台部1/2	外面 輪縁整形、右回転盤削り後回転盤で。 内面 輪縁整形。	--
8	羽釜?	口径 -- 底径 -- 器高 --	①酸化 ②にぶい褐色 ③白色粒・角閃石 ④胴部破片	外面 輪縁整形、焼成前磨刻あり。 内面 輪縁整形。	--
9	禮文土器 坪	口径 -- 底径 -- 器高 --	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色粒・礫 ④体部破片	外面 体部磨削り。 内面 盤で、放射状禮文、焼成後の磨刻「井」。	--
10-1	鉄製品	刀子	残存長3.05 幅1.0 厚さ0.3 重さ2.5 g	--	--
10-2	鉄製品	刀子	残存長5.4 幅0.6 厚さ0.6 重さ11.9 g	--	--

## 3号住居跡

1	須恵器 坪	口径(10.8) 底径 6.0 器高 3.0	①酸化 ②棕色 ③白色粒・角閃石・礫 ④1/2	外面 輪縁整形、底部右回転糸切り。 内面 輪縁整形。	--
2	須恵器 坪	口径(11.8) 底径(7.0) 器高 3.3	①酸化 ②にぶい黄棕色、褐灰色 ③白色粒・黒色粒 ④1/3	外面 輪縁整形、底部回転糸切り。 内面 輪縁整形。	--
3	須恵器 坪	口径 -- 底径(8.0) 器高 --	①還元 ②灰白色 ③白色粒・黒色粒 ④体部～底部1/4	外面 輪縁整形、底部右回転糸切り。 内面 輪縁整形。	--
4	須恵器 坪	口径 -- 底径(8.0) 器高 --	①還元 ②灰色 ③褐色粒 ④体部～底部1/6	外面 輪縁整形、底部右回転糸切り。 内面 輪縁整形。	--
5	羽釜	口径(19.6) 底径 -- 器高 --	①酸化気味 ②灰黄褐～にぶい黄褐色 ③白色粒・礫 ④口縁部～胴部上位1/8	外面 輪縁整形。 内面 輪縁整形。	--
6	鉄製品	鎌?	残存長3.8 幅1.9 厚さ0.2 重さ9.3 g	--	--

## 4号住居跡

1	須恵器 碗	口径 -- 底径 -- 器高 --	①還元 ②灰黄色 ③白色粒・礫 ④体部～底部1/8	外面 輪縁整形、底部回転糸切り。 内面 輪縁整形。	--
---	----------	-------------------------	------------------------------	------------------------------	----

第5表 出土物観察表②

## 4号住居跡

2	須恵器 坏	口径 (9.5) 底径 (6.2) 器高 2.1	①酸化 ②にぶい褐色 ③雲母 ④1/8	外面 轆轤形、底部右回転未切り。 内面 轆轤形。	—
3	須恵器 坏	口径 8.4 底径 5.7 器高 1.8	①酸化 ②明赤褐色 ③白色粒・襖 ④ほぼ方形	外面 轆轤形、底部右回転未切り。 内面 轆轤形。	—
4	土師器 台付甕	口径 — 底径 (11.6) 器高 —	①黄褐色 ②明赤褐色 ③白色粒 ④台部破片	外面 台部横溝で。 内面 台部横溝で。	—
5	鉄製品	棒状鉄製品	残存長2.7 幅0.45 厚さ0.45 重さ3.2g		—
6	鉄滓		長さ3.95 幅2.75 厚さ1.75 重さ22.2g		—

## 5号住居跡

1	須恵器 坏	口径 (14.6) 底径 (6.0) 器高 4.3	①還元 ②灰白～灰黄色 ③褐色粒・雲母 ④1/4	外面 轆轤形、底部回転未切り。 内面 轆轤形。	—
2	須恵器 碗	口径 (14.6) 底径 — 器高 —	①酸化 ②にぶい黄褐色～にぶい黄褐色 ③雲母 ④口縁部～体部下位1/8	外面 轆轤形。 内面 轆轤形。	—
3	土師器 甕	口径 (23.0) 底径 — 器高 —	①黄褐色 ②明赤褐色 ③白色粒 ④口縁部～胴部上位1/8	外面 口縁部横溝で、胴部上位削り。 内面 口縁部横溝で、胴部上位横溝で。	—
4	土師器 甕	口径 (19.4) 底径 — 器高 —	①黄褐色 ②明赤褐色 ③白色粒・角閃石 ④口縁部～胴部1/8	外面 口縁部横溝で。 内面 口縁部横溝で。	—
5	土師器 甕	口径 (21.0) 底径 — 器高 —	①黄褐色 ②褐色 ③白色粒・角閃石 ④口縁部～胴部1/6	外面 口縁部横溝で。 内面 口縁部横溝で。	—
6	土師器 甕	口径 (21.6) 底径 — 器高 —	①黄褐色 ②にぶい赤褐色 ③白色粒・角閃石 ④口縁部～胴部1/8	外面 口縁部横溝で。 内面 口縁部横溝で。	—

## 6号住居跡

1	須恵器 碗	口径 — 底径 5.6 器高 —	①酸化 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・角閃石 ④体部～高台部2/3	外面 轆轤形、底部右回転未切り。 内面 轆轤形。	—
2	須恵器 碗	口径 — 底径 5.6 器高 —	①酸化 ②にぶい褐～明褐色 ③白色粒 ④体部～高台部1/5	外面 轆轤形、底部横溝で、底部に粘土紐作りの歪いた ような痕跡あり。 内面 轆轤形。	—
3	須恵器 碗	口径 — 底径 6.0 器高 —	①酸化 ②にぶい赤褐色～にぶい褐色 ③褐色粒 ④体部～高台部3/5	外面 轆轤形、底部右回転未切り。 内面 轆轤形。	—
4	土師器 甕	口径 (17.0) 底径 — 器高 —	①黄褐色 ②明赤褐色 ③白色粒・角閃石 ④口縁部～胴部上位1/6	外面 口縁部横溝で、胴部1位削り。 内面 口縁部横溝で、胴部1位横溝で。	—
5	須恵器 碗	口径 (22.0) 底径 — 器高 —	①酸化 ②にぶい黄褐色～にぶい黄褐色 ③白色粒・襖 ④口縁部～胴部上位1/8	外面 轆轤形。 内面 轆轤形。	—
6	鉄製品	不明	残存長2.3 幅0.25 厚さ0.25 重さ1.5g		—
7	鉄滓		長さ3.25 幅2.25 厚さ2.2 重さ20.9g		—

第6表 出土遺物観察表③

## 7号住居跡

1	須恵器 碗	口径 — 底径 — 器高 —	①酸化灰味 ②にぶい黄褐色 ③褐色粒 ④体部下位～臺部上位残存	外面 輪縁整形。 内面 輪縁整形。	—
2	須恵器 坏	口径 9.1 底径 4.5 器高 2.8	①還元 ②灰黄色 ③褐色粒 ④ 6/7	外面 輪縁整形、底部右回転糸切り。 内面 輪縁整形。 底部に施成後穿孔2つ。	—
3	須恵器 坏	口径 8.6 底径 4.9 器高 2.5	①酸化 ②褐色 ③白色粒・褐色粒 ④ 6/7	外面 輪縁整形、底部右回転糸切り。 内面 輪縁整形。	—
4	灰輪陶器 皿	口径 (12.8) 底径 6.2 器高 2.7	①還元 ②灰白色、粘・灰オリーブ色 ③白色粒 ④ 1/5	外面 輪縁整形、底部回転糸切り。 内面 輪縁整形。 輪は潰折れ。	—
5	灰輪陶器 段皿	口径 (14.2) 底径 8.0 器高 2.8	①還元 ②灰白色 ③白色粒・褐色粒 ④ 1/4	外面 輪縁整形、底部回転糸切り。 内面 輪縁整形。 輪は潰折れ。	—
6	灰輪陶器 段皿	口径 11.7 底径 5.1 器高 2.9	①還元 ②灰白色 ③白色粒 ④光形	外面 輪縁整形、底部右回転糸切り。体部に崖帯。 内面 輪縁整形。 筋輪は見られない。	—
7	羽釜	口径 (26.4) 底径 — 器高 —	①酸化 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・褐色粒・糠 ④口縁部～胴部上位 1/6	外面 輪縁整形。 内面 輪縁整形。	—
8	鉄製品	鉄線	残存長 7.35 幅 0.75 厚さ 0.4 重さ 8.7 g		—

## 1号配石墓

1	須恵器 坏	口径 10.3 底径 5.4 器高 3.4	①酸化 ②にぶい黄褐色 ③褐色粒 ④成形	外面 輪縁整形、右回転糸切り。体部に崖帯1中。 内面 輪縁整形。	—
2	灰輪陶器 碗	口径 17.4 底径 8.8 器高 7.2	①還元 ②灰白色 ③白色粒 ④成形	外面 輪縁整形、底部回転糸切り。 内面 輪縁整形。 輪は潰折れ。	—
3	灰輪陶器 皿	口径 12.7 底径 5.4 器高 2.3	①還元 ②灰白色 ③白色粒 ④光形	外面 輪縁整形、底部右回転糸切り。 内面 輪縁整形。 輪は潰折れ。	—
4	鉄製品	不明	残存長 2.8 幅 0.75 厚さ 0.6 重さ 5.2 g	小骨の付帯が見られる。釘か?	—
5	鉄製品	不明	残存長 3.75 幅 0.7 厚さ 0.4 重さ 2.7 g		—
6	鉄製品	不明	残存長 3.7 幅 0.5 厚さ 0.3 重さ 7.7 g		—

## 1号溝

1	須恵器 坏	口径 10.7 底径 4.6 器高 3.0	①酸化 ②にぶい褐色 ③内閉石 ④ 3/4	外面 輪縁整形、底部右回転糸切り。 内面 輪縁整形。	1号土坑群出土遺物と接合
2	鉄滓		長さ 3.35 幅 3.85 厚さ 2.1 重さ 30.0 g		—

## 1号土坑群

1	須恵器 坏	口径 (12.2) 底径 (7.8) 器高 3.0	①還元 ②灰色 ③褐色粒 ④ 1/2	外面 輪縁整形、底部右回転糸切り。 内面 輪縁整形。	—
2	須恵器 坏	口径 (11.6) 底径 5.8 器高 3.2	①酸化 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・角閃石 ④ 1/2	外面 輪縁整形、底部右回転糸切り。 内面 輪縁整形。	—
3	羽釜	口径 (22.0) 底径 — 器高 —	①酸化 ②褐色 ③褐色粒 ④口縁部～胴部上位 1/8	外面 輪縁整形。 内面 輪縁整形。	—

第7表 出土遺物観察表④

## 17号土坑

1	須恵器 罎	口径 (11.6) 底径 5.2 器高 3.6	①酸化 ②褐色 ③黒色粒・褐色粒・角閃石 ④3/4	外面 輪縁整形、底部右側糸切り。 内面 輪縁整形。	—
---	----------	-------------------------------	------------------------------	------------------------------	---

## 20号土坑

1	須恵器 罎	口径 (19.6) 底径 — 器高 —	①普通 ②にぶい褐色 ③白色粒・角閃石 ④口縁部～胴部上位 1/8	外面 口縁部横溝で、胴部上位削り。 内面 口縁部横溝で、胴部上位削り。	—
---	----------	---------------------------	---	--	---

## 遺構外

1	縄文土器 深鉢	口径 — 底径 — 器高 —	①普通 ②にぶい褐色 ③白色粒・黒色鉱物 ④口縁部片	無柄・半鉛R L縄文陶文後、種帯胎に幅広沈着が施される。加古利EⅢ式。	3号住居跡内 より出土
2	縄文土器 深鉢	口径 — 底径 — 器高 —	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・石英・黒色鉱物 ④口縁部～唇部片	横穴部磨け付け後、種帯胎部に連続刺突が施される。後期初頭～後期中葉。	4号住居跡内 より出土
3	縄文土器 深鉢	口径 — 底径 — 器高 —	①普通 ②磨 ③白色粒・石英・黒色鉱物 ④唇部片	無銘L縄文陶文後、丸唇状工具による沈着が施される。赤名寺I式。	3号住居跡内 より出土
4	弥生土器 埴	口径 (19.4) 底径 — 器高 —	①普通 ②明赤褐色～にぶい褐色 ③白色粒・角閃石 ④口縁部～胴部小位 1/5	外面 口唇部放状文、口縁部横溝で、下位磨溝で、胴部横溝状文、胴部上位放状文、中位磨溝で。 内面 口縁部横溝で、下位磨溝で、胴部磨溝で。	1号溝内より 出土
5	須恵器 罎	口径 — 幅み 2.6 器高 —	①還元 ②灰色 ③黒色粒 ④磨み部残存	外面 輪縁整形。 内面 輪縁整形。	1号土坑跡 より出土
6	須恵器 罎	口径 — 幅み (3.7) 器高 —	①還元 ②灰白色 ③白色粒・褐色粒 ④磨み部～天井部 3/4	外面 輪縁整形。 内面 輪縁整形。	2号住居跡内 より出土
7	石器	石鏃	長さ 2.85 幅 1.6 厚さ 0.5 重さ 1.26 g 黒曜石製。全体に押圧割痕による調整が施される。基部には欠損後に細かな調整痕が施される。先端部の縁辺は微細割痕が顕著である。	2区より出。	
8	石器	リタツド ・フレイク スタレイバ ー	長さ 2.2 幅 2.1 厚さ 1.15 重さ 5.4 g 黒曜石製。小型剥片の縁辺に急角度の割痕が認められるが、調整割痕であるかは不明瞭である。表面には時々の古い割痕が認められる。	2号住居跡内 より出土	
9	石器	スタレイバ ー	長さ 7.8 幅 5.75 厚さ 1.25 重さ 55.58 g 頁岩製。薄刃縁長剥片を素材とし、両側縁に小さな直線割痕を施し、刃部を作出する。刃部周辺には磨耗痕が認められるが、刃部以外にも磨耗痕が認められる。打製石片を転用した可能性あり。	1区より出土	
10	石器	スタレイバ ー	長さ 7.2 幅 6.7 厚さ 1.05 重さ 51.72 g 頁岩製。産皮をもつ薄型剥片を素材とし、両側縁に小さな調整割痕を施し、刃部を作出する (片面調整)。刃部周辺には磨耗痕が認められるが、産皮の方向は不明。	1区より出土	
11	石器	磨・凹・敲 石	長さ 10.5 幅 9.2 厚さ 6.8 重さ 837.05 g 角閃石安山岩製。磨石を凹・敲石として転用。両縁・表面中央には顕著な敲打痕。表面中央には敲痕が認められる。周縁・裏面の一部が黒色に変色 (煤の付着か?)。	遺跡内一括	
12	石器	磨・敲石	長さ (7.0) 幅 (8.7) 厚さ 5.3 重さ 376.69 g 安山岩製。上部欠損 (接合によるものか?)。全体に磨耗痕が顕著で、下縁及び裏・裏面の一部に小さな敲打痕が認められる。	5号住居跡内 より出土	
13	鉄片		長さ 4.85 幅 3.2 厚さ 1.85 重さ 44.3 g	1号土坑跡内 より出土	

第8表 出土遺物観察表⑤

## VI まとめ

### 1. 土葺屋根を有する竪穴住居跡について (第32図)

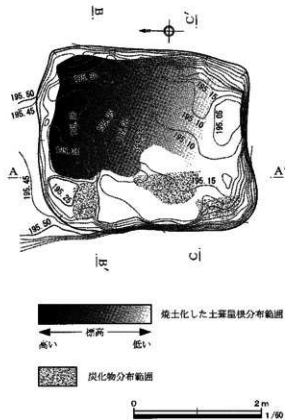
今回行った調査では、平安時代に帰属するものと想定される竪穴住居跡が8軒確認され、このうちの2号住居跡内で崩落した土葺屋根の痕跡を捉えるに至った。本来、竪穴住居跡の調査において、土葺屋根の検出は困難なものと思われる。しかし、本遺跡で調査した2号住居跡の場合は、遺構確認面からの残存深度が70 cmと深いことや激しい焼失などの事由により、比較的良好な状態で崩落した土層等を確認することができた。ここでは、焼失した2号住居跡内に残された様々な痕跡を基に同住居跡の構造について考察を加えたい。

2号住居跡に残っていた土層構造の痕跡は、焼上化した屋根土・茅状の炭化物・垂木状の木材と判断できる。焼上化した屋根土は竪穴住居跡の北西側半分で確認されており、埋没土の中位から下位にかけて分布する状況にあった。なお、焼上は住居跡北西側から南東方向に傾斜する(低くなる)ように検出され、住居跡中央からやや北西付近の焼土化が顕著である。焼土化した上の真下からは茅状の炭化物、さらに同炭化物の真下からは垂木状の木材が出土している。これらの材は、部分的な残存であったため、隅垂木や桁・梁・棟等の配置を確認するに至っていない。このような状況から、屋根の構築は、垂木の上に茅状の材を葺き、さらにその上に土を被せる構造と推えよう。時期は異なるものの、黒井峯遺跡(1990 石井)では、下から垂木→茅→土となる3層構造が確認されているが、本遺跡の2号住居跡は茅状の材と土の2層構造の確認に留まっている。

屋根に伴う構築物のほかに、住居跡の壁面に薄く張り付くような状態で、材質不明の炭化物が確認されている。この材質不明の炭化物は木材ではなく、手で触るとハラハラと崩れ落ちてしまうような非常に脆い材である。このような材は、やはり黒井峯遺跡で網代重として確認されており、本住居跡においても同様の可能性が指摘される。

このほか、住居跡の床面において、直径4 cm、深さ5 cm程の小ピットが2基確認されている(第9図参照)。このピットは掘り込みや打ち込み痕ではなく、地面が重みで沈んだような状態を示すものである。小ピット内には多量の炭化物が含まれており、可動式の梯子の基部が残存していたものと推測される。

ところで、冒頭で述べた通り本遺跡では8軒の竪穴住居跡が確認されているが、このうちの6軒は10世紀代に比定されるものである。6軒の住居跡を概観してみると、2号住居跡のように遺構確認面からの掘り込みが70 cmと深いものと、隣接する1号住居跡のように僅か15 cmと浅いものとが見取



第32図 焼上化した土葺屋根の分布状況

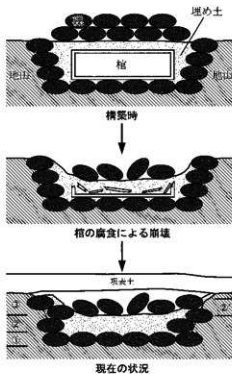
れる。箕郷町周辺における10世紀代の自然現象等から、とりわけ大きく地形を変容させるような事象は見当たらない(群馬県史編さん委員会 1990 群馬県史)。本遺跡の竅穴住居跡に見られる掘り込み深度の違いは、当時からのものと考えられ、竅穴住居を構築する際、意図的に掘り込みが深いものと浅いものとを区別していたと言えよう。掘り込みが深い住居は、当然ながら多量の土が住居の空間外へ出され、それに対し、浅いものは空間外へ出される土量は少ないはずである。住居跡から出る多量の土が周境帯や土葺屋根などに利用されることは既に周知(石井 1990 黒井峯遺跡)であり、本遺跡の2号住居跡にも当てはまる。それに対し、掘り込みの浅い住居跡は、掘削した土により、周境帯や土葺屋根を作り出すことは土量の関係上不可能であることから、平地式家屋に似た簡素な上層構造であったことが想像される。

群馬県内において、IIr-FP(樓名山ニッ岳伊香保テフラ:6世紀中頃)やIIr-FA(樓名山ニッ岳沢川テフラ:6世紀初頃)の影響で、上層構造を残したまま埋もれた竅穴住居跡や平地式家屋は既に確認されており、古墳時代後期における家屋構築パターンの一つとして認識されている(石井 1990 黒井峯遺跡)。今回の調査で、柱構造等の違いはあるものの、土葺屋根が平安時代まで踏襲されていることや、必ずしも住居跡の上層構造は同一ではないということを知ることができた。2号住居跡で確認された土葺屋根の存在は、平安時代の集落形成や周辺環境を捉えていく上で、注目すべき事例と言えよう。

## 2.1 1号配石墓の崩壊過程(第33図)

1号配石墓は集落内に置かれた平安時代(10世紀代)の墓と認識しているが、そのほぼ半分は現代の攪乱により壊されている状況にあった。しかし、残存している埋没土の観察により、本配石墓の埋没過程を捉えることができた。第V章で示した遺構事象記載に若干の補足を加えたい。

本配石墓の断面を見ると、下から鋪石状に敷かれた礎(①層)→As-Cを含む黒褐色土(②層)→礎集中部分(②'層)→As-Cを含む黒褐色土(③層)の順に堆積する状況を観察できた。注視すべきは、②層で、人為的に攪拌されている同層からは木質が付着した釘状の鉄製品が出土している。なお、同層最下位からは人骨と思われる骨片が出土していることから、本遺構を墓と認識するに至っている。木質が付着した釘状の鉄製品は木棺の存在を示すものであろう。ここで、木棺の存在を視野に入れた本遺構の崩壊過程を第33図に示してみた。構築時に形を留めていた棺が、時間の経過と共に腐敗し、上位に盛った土と掘えられた礫が落盤したものと考えられる。さらに、落盤した礫の上に自然埋没土の③層が堆積し、現在の埋没状況へ姿を変えていったものと推測されよう。

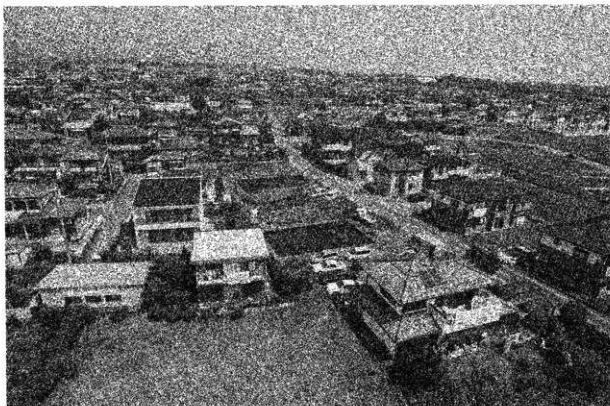


第33図 1号配石墓の崩壊過程図

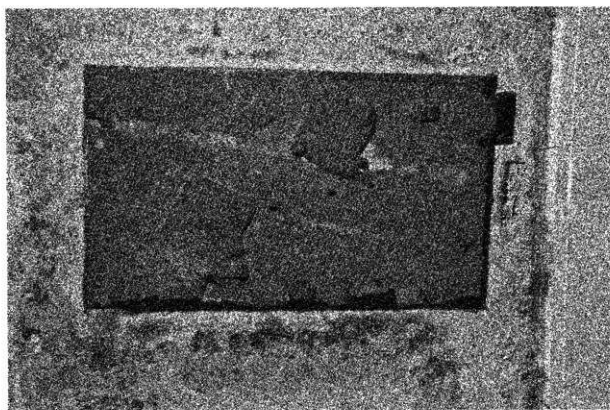
### 参考文献

- 石井克己 1990 『黒井峯遺跡発掘調査報告書』 子持村教育委員会 石井克己ほか 2006 『吹上志久保遺跡』 渋川市教育委員会  
 群馬県史編さん委員会 1990 『群馬県史 通史編 原始古代I』 群馬県  
 栃木県考古学会ほか 1995 『東日本における奈良・平安時代の墓制』 東日本縄文文化財研究会栃木大会準備委員会

# 写 真 图 版



遺跡透景



1区全景

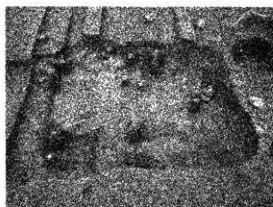




2区全景



1号住居跡全景



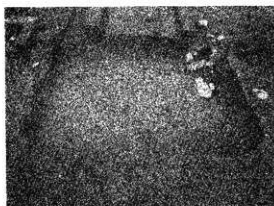
2号住居跡土葺屋根検出状況



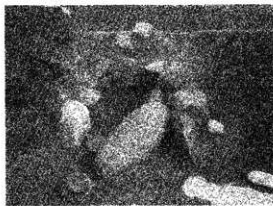
2号住居跡土葺屋根断石割り断面



2号住居跡茅状炭化物出土状況



2号住居跡全景



2号住居跡カマド全景



3号住居跡全景



3号住居跡掘り方揃き込み底検出状況



4号住居跡全景



5号住居跡全景



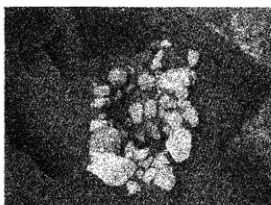
7号住居跡全景



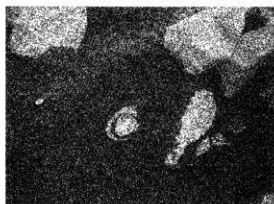
7号住居跡遺物出土状況



6号住居跡全景



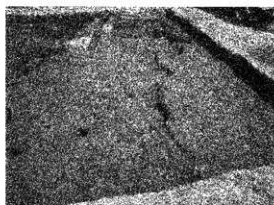
1号配石基全景



1号配石基掘り方遺物出土状況



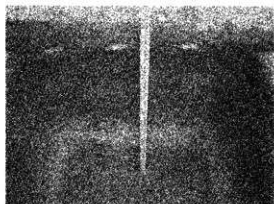
1号配石基掘り方全景



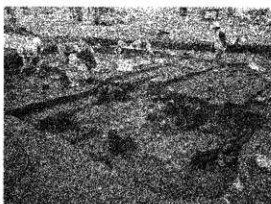
1号溝全景



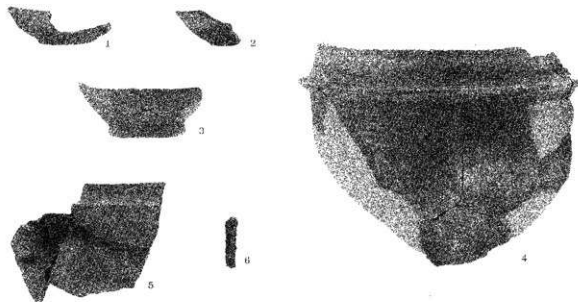
1号土坑群全景



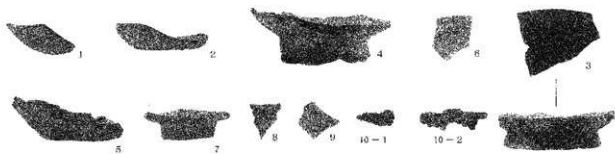
標準堆積土層



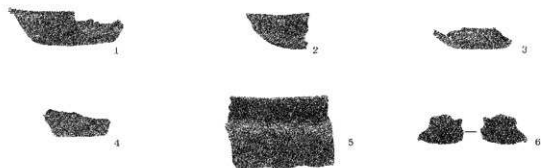
調査風景



1号住居跡出土遺物



2号住居跡出土遺物



3号住居跡出土遺物



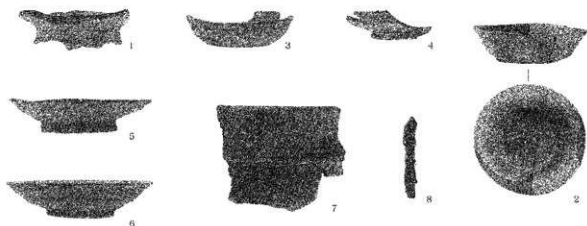
4号住居跡出土遺物



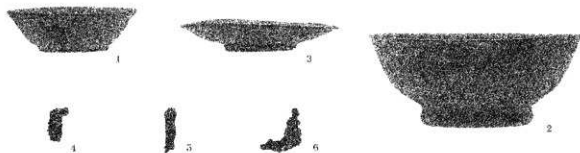
5号住居跡出土遺物



6号住居跡出土遺物



7号住居跡出土遺物



1号配石墓出土遺物



1号溝出土遺物



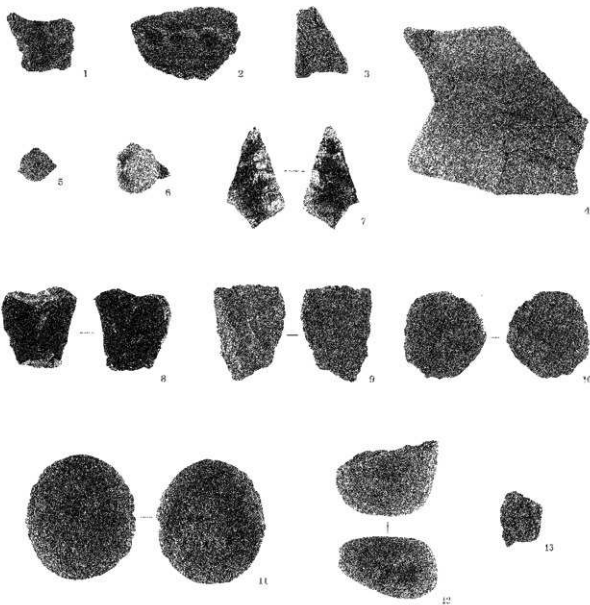
1号土坑群出土遺物



17号土坑出土遗物



20号土坑出土遗物



遺構外出土遺物

## 報告書抄録

書名	全徳森遺跡
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第236集
編著者名	山口一郎 山口剛史
編集機関	高崎市教育委員会
発行機関	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1 Tel. 027-321-1292
発行年月日	平成21年3月31日

全徳森遺跡	群馬県高崎市箕郷町445番地1	102020	415	36° 23' 42"	138° 58' 04"	20080423 ～ 20080523	330 m <sup>2</sup>	宅地造成
-------	-----------------	--------	-----	-------------	--------------	---------------------------	--------------------	------

全徳森遺跡	集落	平安時代	塚穴住居跡	8軒	縄文土器	2号住居跡で焼失による土器屑の落盤を確認。また、配石墓の確認は平安時代の集落内における墓域のあり方を示唆する良好な資料と言える。
			配石墓	1基	石器	
			溝	1条	弥生土器	
			土坑群	1群	土師器	
			上坑	22基	須恵器	
			ピット	16基	灰軸陶器	
		A s - B 降下以降	土坑	5基	羽釜 鉄製品	

高崎市文化財調査報告書第236集

### 全徳森遺跡

—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査—

平成21年3月23日印刷

平成21年3月31日発行

編集/高崎市教育委員会

発行/高崎市教育委員会

印刷/朝日印刷工業株式会社